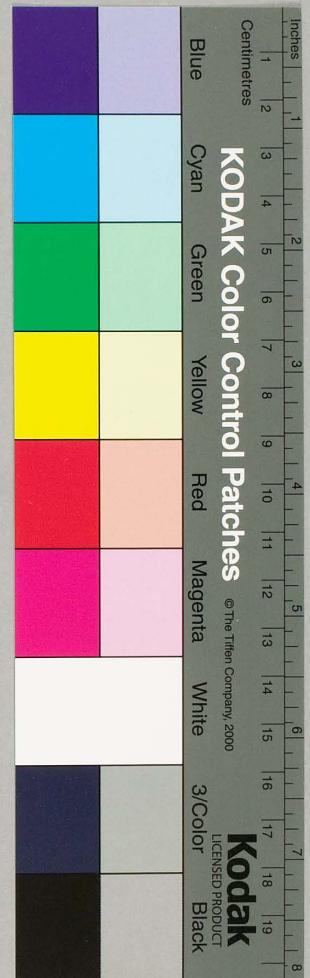


© The Tiffen Company, 2000

KODAK Gray Scale

C Y M

Kodak
LICENSED PRODUCT



0435



關津名所圖會

坊部 四上



摺津名所圖會卷之四

目錄

大坂之獅	浪速男	難波津	難波里	坐摩神社
天滿神社	御津	御津	御津	御津
稻荷山	川崎御宮	御宮	御宮	御宮
大將軍社	御堂	御堂	御堂	御堂
天滿社	御堂	御堂	御堂	御堂
朝来池	御堂	御堂	御堂	御堂
宗圓墓	御堂	御堂	御堂	御堂
落天神	御堂	御堂	御堂	御堂
天滿神社	御堂	御堂	御堂	御堂
天滿菜蔬市	御堂	御堂	御堂	御堂
不動堂	御堂	御堂	御堂	御堂
兔餓野	御堂	御堂	御堂	御堂
寶珠院天滿宮	御堂	御堂	御堂	御堂
龜松	御堂	御堂	御堂	御堂
祐明宮	御堂	御堂	御堂	御堂
小聖天神	御堂	御堂	御堂	御堂
天滿入神宮	御堂	御堂	御堂	御堂
日羅協	御堂	御堂	御堂	御堂
蛭子祠	御堂	御堂	御堂	御堂
梅家	御堂	御堂	御堂	御堂
天融寺	御堂	御堂	御堂	御堂
玉の井	御堂	御堂	御堂	御堂

武庫川女子大学図書館	昭和年月日	29/6/29
		Ak
		4.



大江波危津

同銘高田翁

内玉町神明

大世翁率

樓屋敷

吳服囃

飛禽舗

虎屋春蘭

御靈社

芭蕉翁終考地

順慶田夕市肆

貞柳蹟

津村御堂

對面所

油懸地藏

井上堂

難波御堂

阿彌陀堂

聚樂館古蹟

井上堂

難波仁德帝社

唐年陞

哥舞伎樂戶

井上堂

難波不師

現成化蹟

道頓堀

井上堂

三津寺

二尊堂

通樂館

井上堂

庚申家

東太鼓

通樂館

井上堂

戲棚梨園

迎松事

通樂館

井上堂

四橋

煙管舉

通樂館

井上堂

雜喉場

通樂館

通樂館

井上堂

掘江

通樂館

通樂館

井上堂

廣教寺

通樂館

通樂館

井上堂

掘江

通樂館

通樂館

井上堂

新町頑城廓

通樂館

通樂館

井上堂

敷津浦

通樂館

通樂館

井上堂

諸侯道

通樂館

通樂館

井上堂

難波正柏

通樂館

通樂館

井上堂

金葉

昆羅

博勞

白洲

岬

觀音

金洞

地藏

一之洲

網船

行芦

通樂館

愛樂堂

通樂館

通樂館

井上堂

地藏堂

通樂館

通樂館

井上堂

浪速道

通樂館

通樂館

井上堂

難波沖

通樂館

通樂館

井上堂

難波速

通樂館

通樂館

井上堂

難波正柏

通樂館

通樂館

井上堂

井上堂

通樂館

通樂館

通樂館

石濱

通樂館

通樂館

井上堂

砂場

通樂館

通樂館

井上堂

敷屋町

通樂館

通樂館

井上堂

龜奈

通樂館

通樂館

井上堂

和光寺

通樂館

通樂館

井上堂

大仲岩

通樂館

通樂館

井上堂

瑞見山

通樂館

通樂館

井上堂

標榜

通樂館

通樂館

井上堂

大仲

通樂館

通樂館

井上堂

櫻

通樂館

通樂館

井上堂

材木市

通樂館

通樂館

井上堂

御舟舍

通樂館

通樂館

井上堂

御見櫻

通樂館

通樂館

井上堂

潮見櫻

通樂館

通樂館

井上堂

永代深千鶴市

通樂館

通樂館

井上堂

難波海

通樂館

通樂館

井上堂

浪花水門

通樂館

通樂館

井上堂

攝津名所圖會目卷之四目錄



屋軒八



捕田ノ三



豊若窓
中也あく
上下的の衣の船客の松
生あり者の方の車
石もゆく駕
人江屋大江浦とひし
今人京橋筋二河内に丁目
とがく又野の旅舎のれ
俗八軒と地名だ

まふ
おと川
大江乃浦
はくしの
ちくねをく
ほんあく

井上



大坂と/or子上古廟に按どる大江坂の畠前へ大江へ難波江の一名もて
仁德天皇第一皇子と人江伊耶本和氣命と申れ受御の後へ
號初く國の今時 金城より南一推の丘山より大江の岩井古跡も多く
谷町坂町の名がゆく 坂町へ通領坂の名あり 明應の頃蓮如上人の文書が攝州
東生郡生玉庄内の坂とあれ其源へ封境慶をみへあゝまつて 今も
生玉と称じて 上古へ通居令西園の造やく 景行帝の御宇より大坂の
武日連 允恭帝の御時へ大伴室屋大連社稷と輔翼一叛賊星川皇子
と重げ 顯宗帝と大輔小弔なる圓ノ原へ車限す一寶年中子大伴安齊
舊老小之伴牛養和銅共大伴族人大伴山守大伴又大伴大書大伴
家持等次第を領して自然と大伴の名蔓まく大伴の浦津の漢或へ大伴
の浦津の泊とも稱し 上吉ノ圓五之伴の那野あり松州法華院資財院坐す御堂の御名也
或も數多き鑑 真領寺古跡へは岩の圓房町へ 大の岩の今ハ八郎の後を務めて
佛氏と號し 且領寺古跡へは岩の圓房町へ 座夢の御旅所也神石あり
少く小石町と称す 之正中顯如上人石山の佛堂退去の後豈太閣御門と當る
可もんが

萬圓の列度藩屏と一千門と開く交易の賈人四衢を滿く繁栄とあ
金城の號あるを金水涌出不易を経て名圓初う西海の信標かして枝と
あらう浦代かれ諸國の米穀材石及び木漢の雜貨も小舟舟とく朝の若葉
の市街が置く實日暮都會の要津れび緋桟四衢の駿く名まく海内冠う
仁德紀尔拂製ゆうの佐豆磨能ト部承澤云朝妻へひがの難波の中此爲めり
ちもくも大坂の因わく縁とを傍也可わんや

皇明實記卷之九一云

丁酉萬曆二十五年二月復議東征時封事已
壞而楊方亨詭報去年六月十五日從金山渡
海九月二日于大坂受封即以四日回和泉州
然倭責朝鮮王子不往謝留金山一如故下畧
之邦新舊之被廢存廢皆在之貢新舊之邦
北方を支那に北也爾獨當敵中のもの名めり中央と直隸と蘇揚と
之邦の内事が王送り上野高津酒は土佐佐土佐と近江と近江と
入水の處別あり 橋松町名起もる 小源根
大坂町の源別あり 橋松町名起もる 小源根
入水の處別あり 橋松町名起もる 小源根
大坂町の源別あり 橋松町名起もる 小源根

万葉

羅波はのみひおろを表意そうち今まねとまふほれ

宿家持

後撰

羅波津をすふともの浦と小是やけ世はうと彼ふア
拾也

業主部也

ふにへばくもあらのを船とまはくの風はすらふたを
千載

祐明

その羅波の芦れかくとゆが淺不御帰あり

賀尼成保

古 三國のかやほの喜へ爰あれや芦の桔梗年風波ふきり
廿一代集小路波の和寺百二十首あり

あり

江家次第一日

八十鳴祭日到難波

津一宮主作壇依之同置祭物

女官内藏寮官人等以御衣案立官主ノ前典侍
車并出車等列立官主座東北西上面件座東立平

張可敷神祇官并中官東官内藏等属以下座

羅波里

江古ス坂名び東北の村里と

羅波里

江古こそぞやる曾

信實

ほのくちの羅波の里れ夕そみ河のゑのひ小秋風を吹

光昭春吉

風唯

ほの園れかにそひをせてもあもあうたと守護士の舟船

八道

支床

波かく絃羅波の里れわ枝月もむてや結ひ並さん

薩摩門院

羅波人

日本紀曰仁德天皇御歌

那、珥波譬苦人、復儒赴泥船苦羅齊避

万葉

於朋游赴泥御禮取

羅波人芦火くすあを不在と已う事あを麻ウルシテ

等持院

續本

羅波人芦火くすあを在と已う事あを麻ウルシテ

佐倉

續拾

羅波人芦火くすあを在と已う事あを麻ウルシテ

大原

續拾

羅波人芦火くすあを在と已う事あを麻ウルシテ

柳原九郎

續拾

羅波人芦火くすあを在と已う事あを麻ウルシテ

佐倉

續拾

羅波人芦火くすあを在と已う事あを麻ウルシテ

佐倉

續拾

羅波人芦火くすあを在と已う事あを麻ウルシテ

佐倉

續拾

羅波人芦火くすあを在と已う事あを麻ウルシテ

佐倉

海津多國廻船の水門を諸州の人物貴とふく販とめく若とあく先
とくく入交の地へかくへをもく渡迎ミ演忠恭の者申叶ふうく
相其名廟少元禄七年の頃北新町役屋家小土賣七を湯又本町

大原

三年小木滿岩井籠細工總次弔十才馬之助十九向金附小樽心賣

佐倉

の姫ひめの五子ごこ喜吉母よしよしの至孝しりやく之父ちふく滿まつを丁目播磨とよめ兵登源義清ひでよし其妹梅せなづ門

守もり之右さゆ門妹もんめいと先さゆ門才源藏さいざうは妹わいか。星才せいさいの者もの孝貞こうじやう

あく母おやと接育せついく一家いっけ賤業せんぎょう公出こうしゆ移いと年作とせつ年作とせつ異い人ひと俱とも小寶政こぼうせい二年の

半はん同どうに年作とせつ大おほは南木勝なみき附つき常陸じょうりく延治えんじ左邊さへん門もん招むかみ毛け九く。其母おや痙き症しようううて及およ傷きず不ふ及及と爲ため止とど令れいと助すけけ生涯じ涯孝こう公こう多た。旧年きゅうねん

小太瀬山恭こだせさん田たと年作とせつ修しゆ清きよト人ひと長壽ちじゅの主人しゆじゆ忠ちゆう公こう。一いは六年小

西高津新地せいこうづ久所くそ門もん恭ごん。右う母おやのちくひちくひ母おや小事こごとかゆゆ君きみのぬぬ

四年小酒こしゅ迎むか町まちの源義清げんぎせう。父とう母おや小孝ここう公こうと年作とせつ小立こたつ年ねん。

の源義清げんぎせうみよよのちくひちくひ母おや業わざ小本綿紋こほんめいもんととて十六じゅうの時とき。

星才せいさい町まち卒そつ同勵平とうりへい女めのか。十じゅう業わざ小本綿紋こほんめいもんととて十七じゅうの時とき。

星才せいさい寢ね出で毛け孝こう書かく。平壁ひらかべ間ま牆つき。ト人ひと若太郎わかたろう。四十五よそ。

二代じだいの主人しゆじゆ小忠勤こちゆうきん。一い巴ひ母おや小至孝こしりやく。又また同時じどう。

而ひ通つう伊勢いせ金佐清きんさきよ。主ぬし家いえ公こう相續あわせ。忠貞嚴ちゆうぜんげん。寛政八年かんせい八年の裏うら。

又ひ南城なんじや江鉄屋こうてつや家いえ小住こすみ。ゆたか母せう。恭ごんと厚こよい。母おや妹わい成せい。

育いく業わざ小本こほん綿めい紋もんととて上じやう件けんの人物ぶつじやく。又また官くわん家のいえ高たか聞き。達たつ。

台だい命めいの内うち御ご寝ね。美うつく。悉銀若干悉。賜たま。迎むか世よの半はん。

委まつちまつ人ひと多多く。故ゆゑ其その要う公こう操さん。すくに祀まつ。次つぎ子こ曰い天あま地ぢの性う。

と貴たかしたか人のひとへ孝こうより大おほ。あくらか。明王德めいのうとくと敷ひらく下しと化かす。

財ざいみみふ孝こう有あく。あくく。從つ。仁德聖帝じんとくせいていの遺い風ふう。千載せんざいの後ご。

耀ひかるく。あくく。公こう難波なんば人ひとととき。アマ。

浪花男なにわの風俗ふうぞく。美服うつく。好す。櫻樹さくら。と。櫻樹さくら。萬物まんじゆの交こう易えき。自じ在ざい。大正だいせうの末すえ。豊太郎とよたろう。

壹いつ子こ。極きわ。人ひと。極きわ。引ひき。英えい。英えい。む。よ。仰あお。仰あお。壯士そうし。あがく。

耀ひかるく。あくく。公こう難波なんば人ひとととき。アマ。

浪速なにわ女めの。風俗ふうぞく。大器だいき。原作げんさく。小傳こてん。

雅まさ彼かれ女めの。芦あし糸いと。やの。そと。と。あくく。

かくく。ひかひか。そと。あくく。努つと。と。あくく。

後ご成せい

益ます清きよ



坐摩神社

船場の中央にある延喜式神名帳を有する神社。大日以相掌勅掌

奥多良也羅波久社とあり、又菅公奉納の

一社の神社である。西成郡の生玉社の例をもつて、毎月廿二日と廿六日

祭神 生井神 稲井神 窭井神 三澤井神 小竈神 二所を祀る。神名も

波比祇神 手須婆神 三毛底保く五座入宮中神卅六座の中より

攝社 田蓑神社 俗名宮林 多賀洞 美符洞 大國玉祠 八幡祠 人丸祠

攝社 神功皇后神社 末社

多良洞 榊尾祠 檜田老祠 天神祠

神樂殿

本社のあ

繪馬舍

御樂屋の

折高社の鎮坐は神功皇后十年也。之韓うす御凱陣より御神幸食の香劍

小舟にて御船を活連の岩津見石の上にまで神靈を鎮て齊浮御膳を齋と

歎したれどもあくせき経ノ神社の旧地父兄は岩田蓑時今御前御院之第三代實

緯云貞觀元年正月從四位下授く同年九月八日攝津國羅波久社神等遣

使を船為風雨初之延喜式云几坐摩近取都下幽造氏童女七歲已上者充

之若及湯時充替云其外論旨諸翁壽御教書御願書善附狀等神庫又

賦む又羅波久社の御鎮社あるうゆ小社の有於羅波町と云ひ社號の

佐助のや公渡辺町といへ夏役の神事小神與御神所(渡)と奉告の若氏

おもひく遠也とすく壯麗なる奈式ノ特外御社ハ羅波市街

繁花の中われば乃小商人多く市店社花小連と芝居觀わあく

振くこれ皆神徳の餘光なり

御旅所

の名より毎歲六月廿二日神輿を社内の神石小安坐し神事執行督管を有す

大江崖 古寺の山に樹木々又獨居者凡今ハ野處の僕あり是より南乃方

一樹二名ありハ軒蓋と曰く施舍八家は多くありく承原の上に

根ふく盛とおく入船出船あらか噴しへ地都く茎の表

根葉

生木

船屋へ寄りあらか廣より大江の崖へとまく

生木

さみれに因ねれとひのれに見ゆる生駒ゆふか

生木

船屋へ寄りあらか廣より大江の崖へとまく

生木

玉藻の之間の浦村の風みほーの花も散ぬ草も

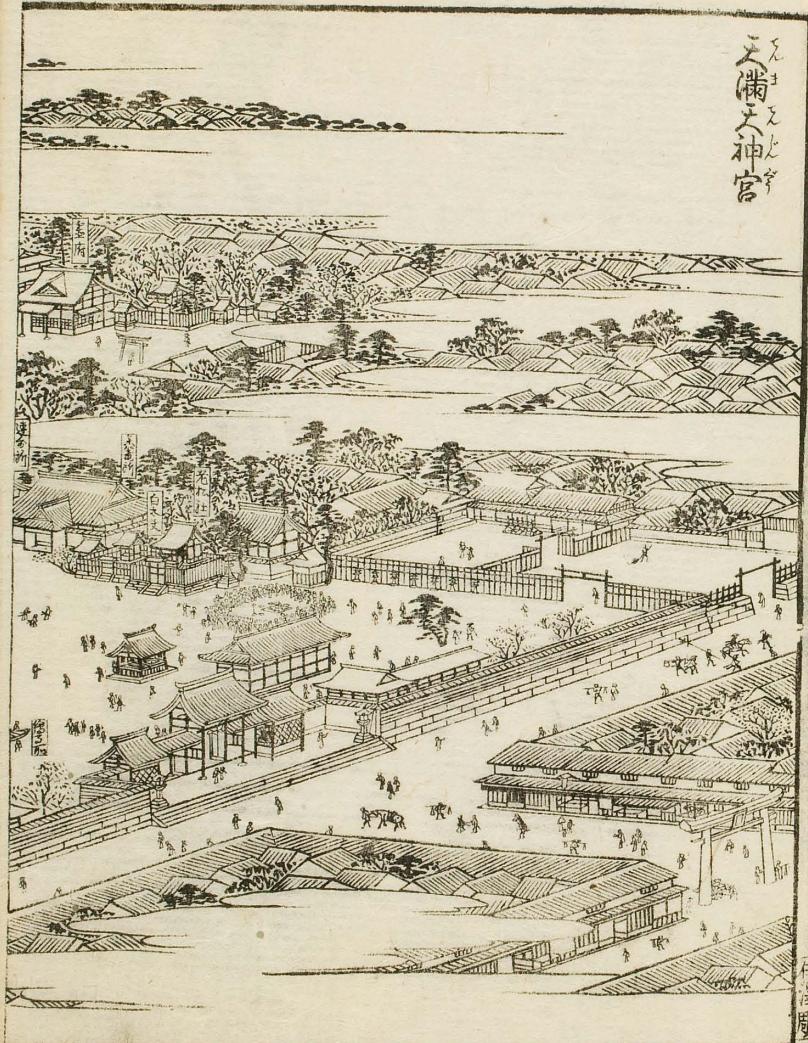
生木

船屋へ寄りあらか廣より大江の崖へとまく

生木

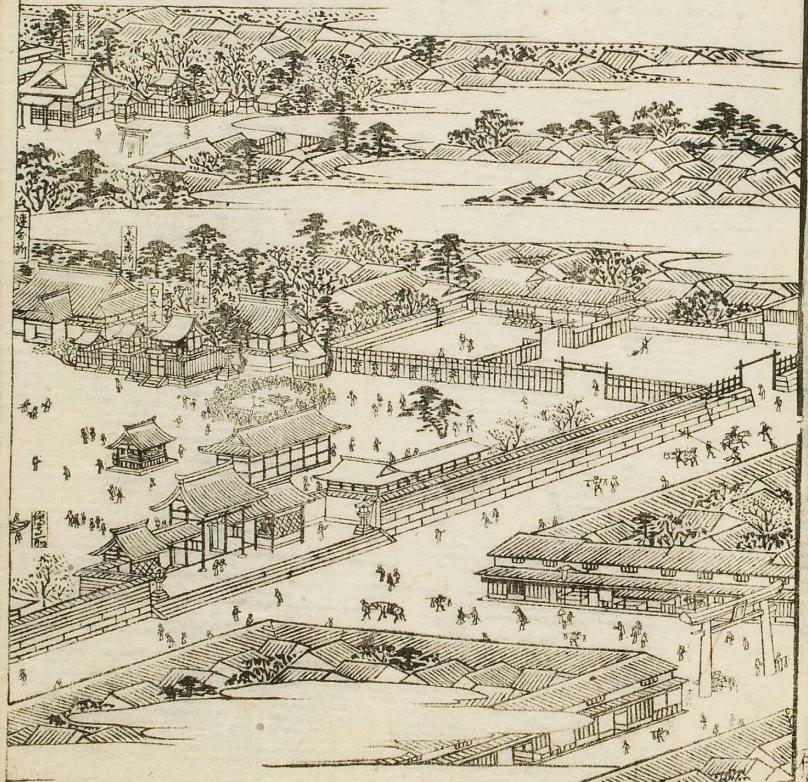
玉藻の之間の浦村の風みほーの花も散ぬ草も

生木



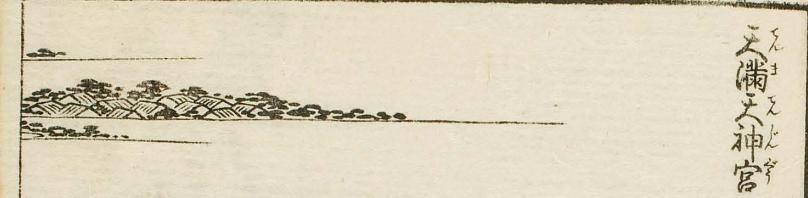
伊豆幸彌

定家



伊豆幸彌

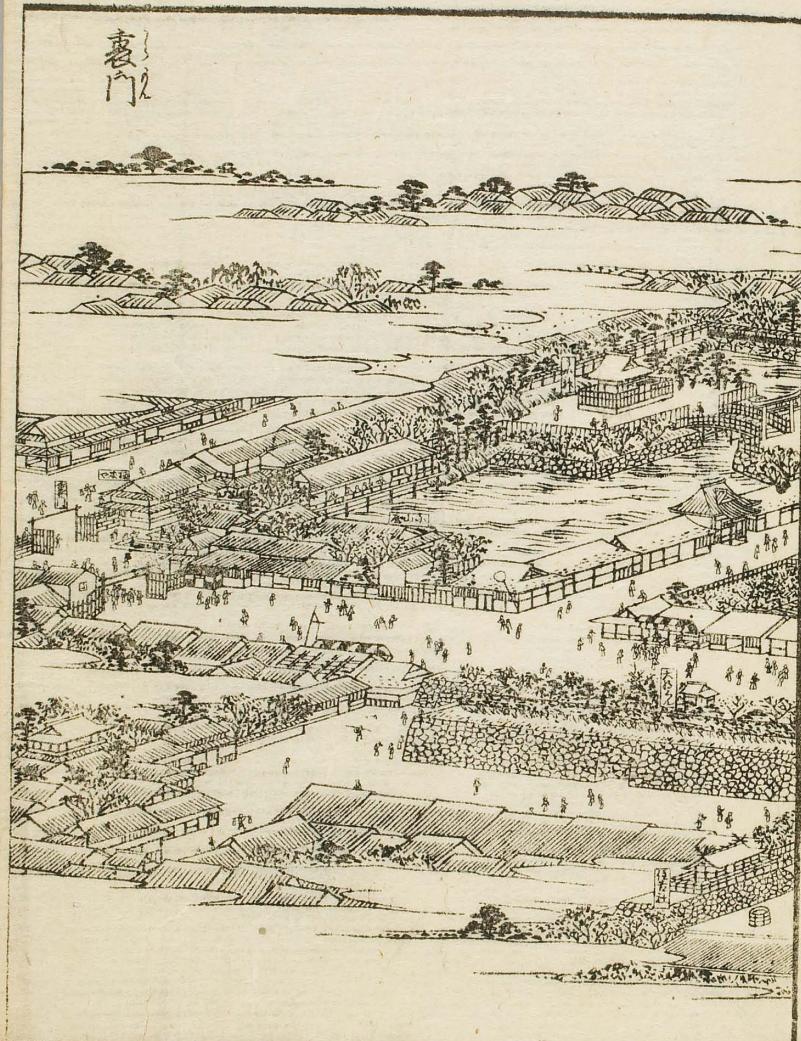
定家



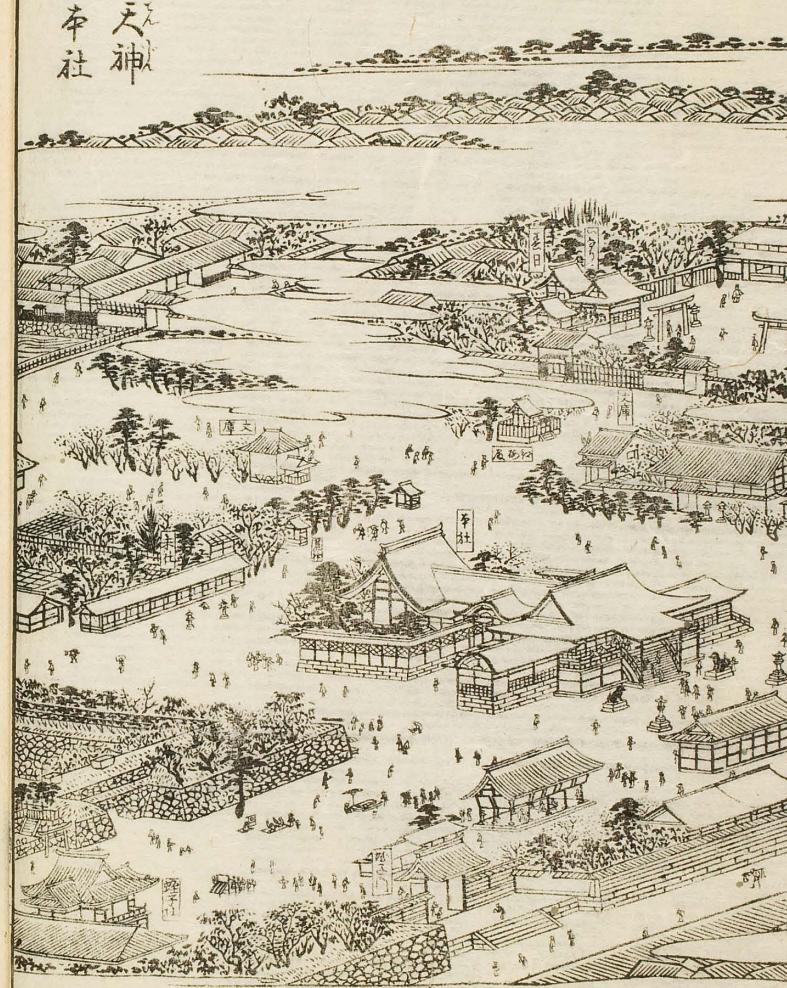
古事記仁德天皇者婚八日太后大恨怒載其御船之御網夜戲遊
中界於是海故號太若即女而畫夜戲遊
悉投棄於其地謂御津前也

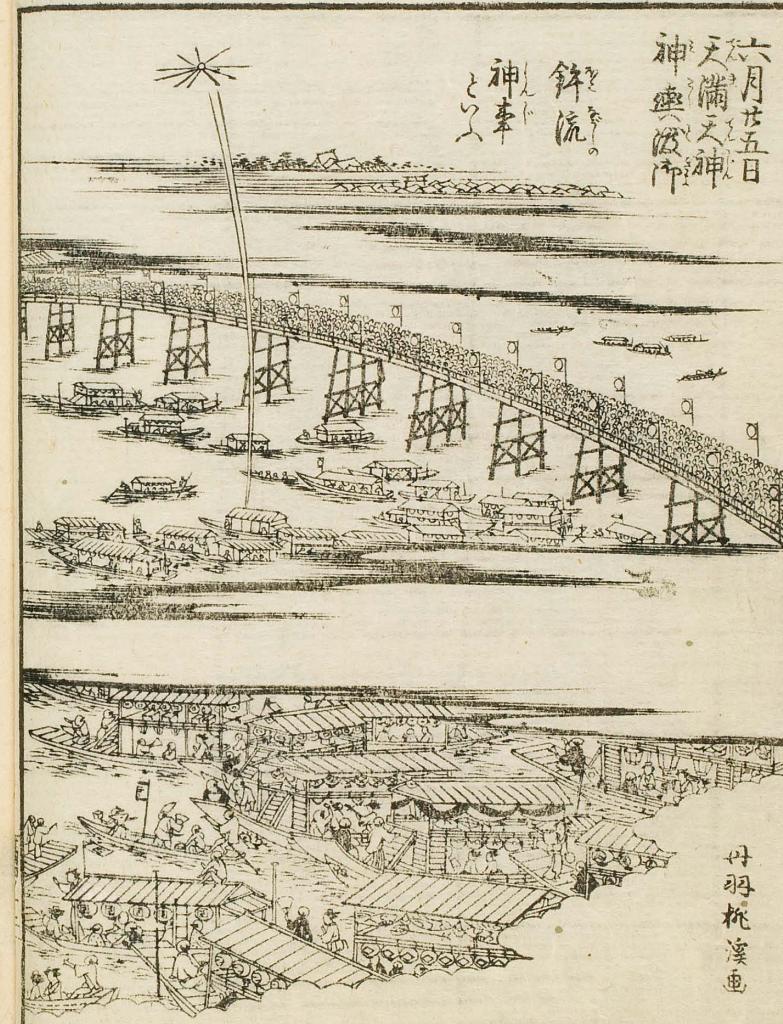
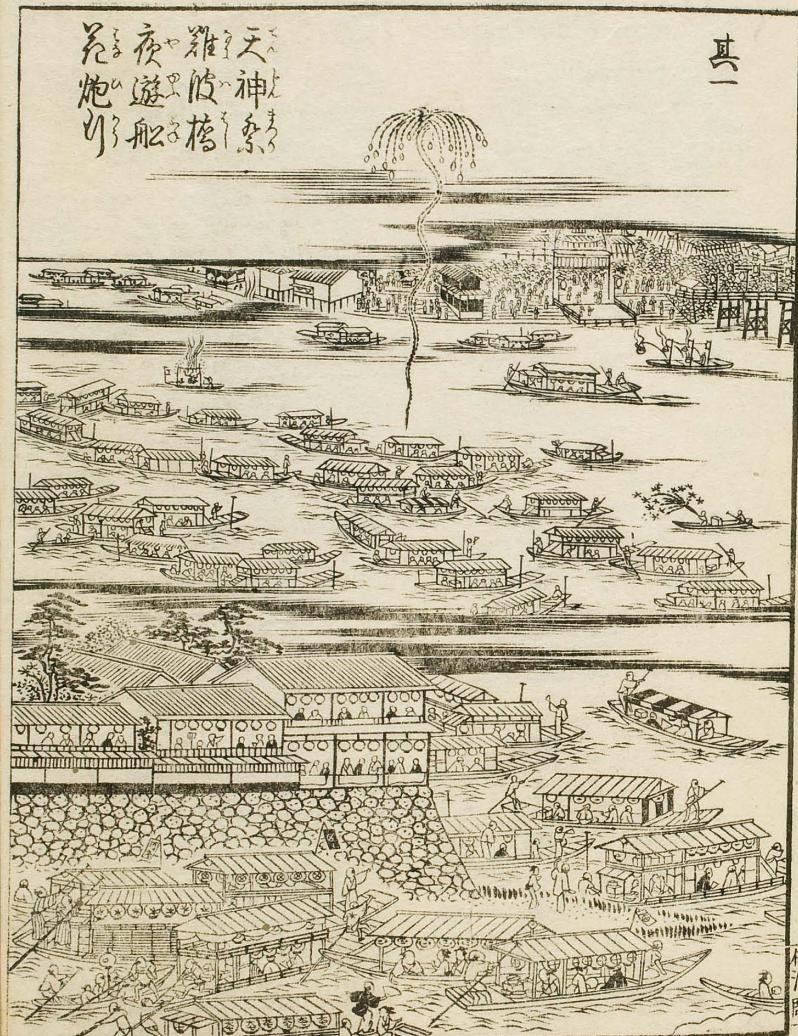
萬葉
哀
抑熙や稚波の三河小焼塩のかくして和老干けるの那
稚波
難波津をさへおきみ川の浦毎小それやは世がうみ波る船
新古今
いとまゝとて日年一大体の三河の候松まちこひわくん
後古今
かあんぐらとや鹿もんかみのこほのまじの馬比的朗
王集
老の馬もりあら居代ともれちまそ三河乃演風
續拾
松多三河の演れまよゑひこのあす詠や付はる
車子院稚波よりきめとた
新千
立田山夕船若ぬ大体乃三河北泊年や御さん
立田山
林の秋へれ給ひて大体の三河の泊を夜うりらん
王集
三河の浦小魚藻かつて海士人もつむく神へゆれば
喜多院
喜多院
終治法師
喜多院
定家

裏門

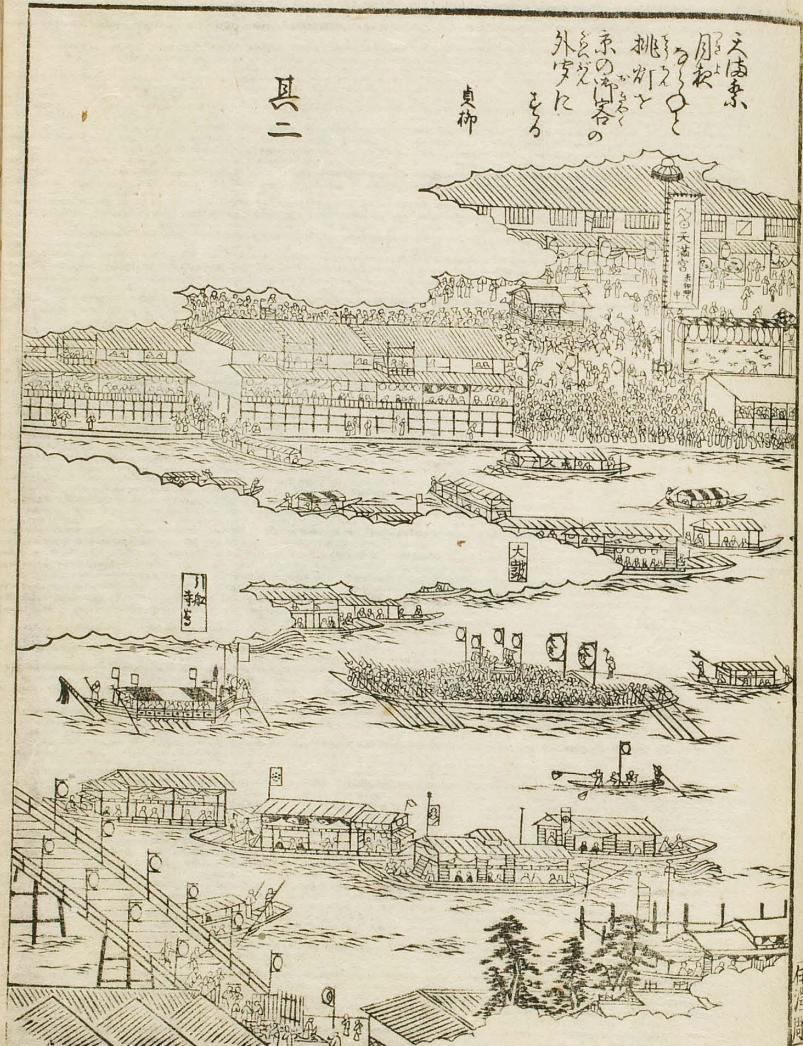


天神
本社



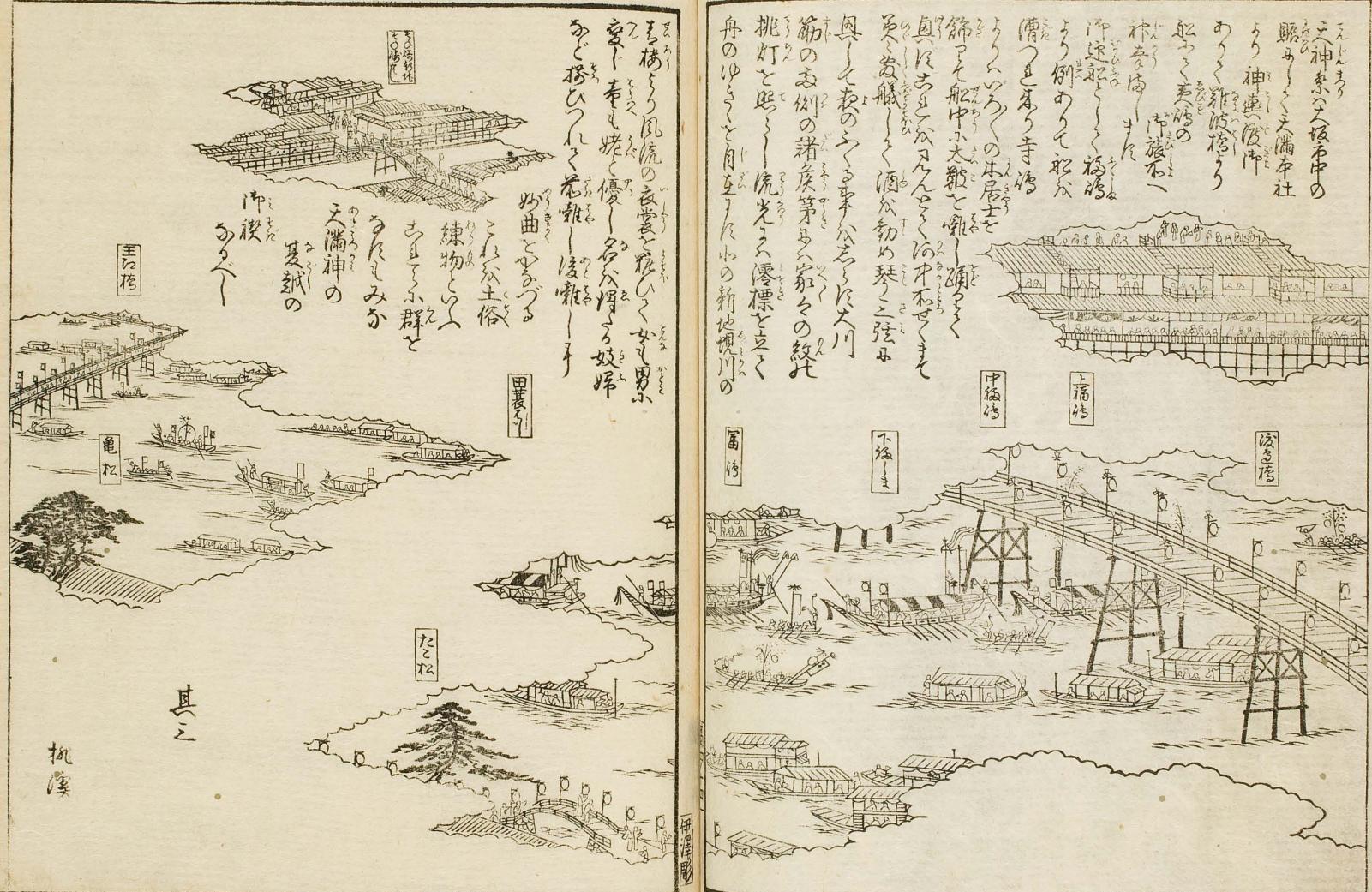


其二



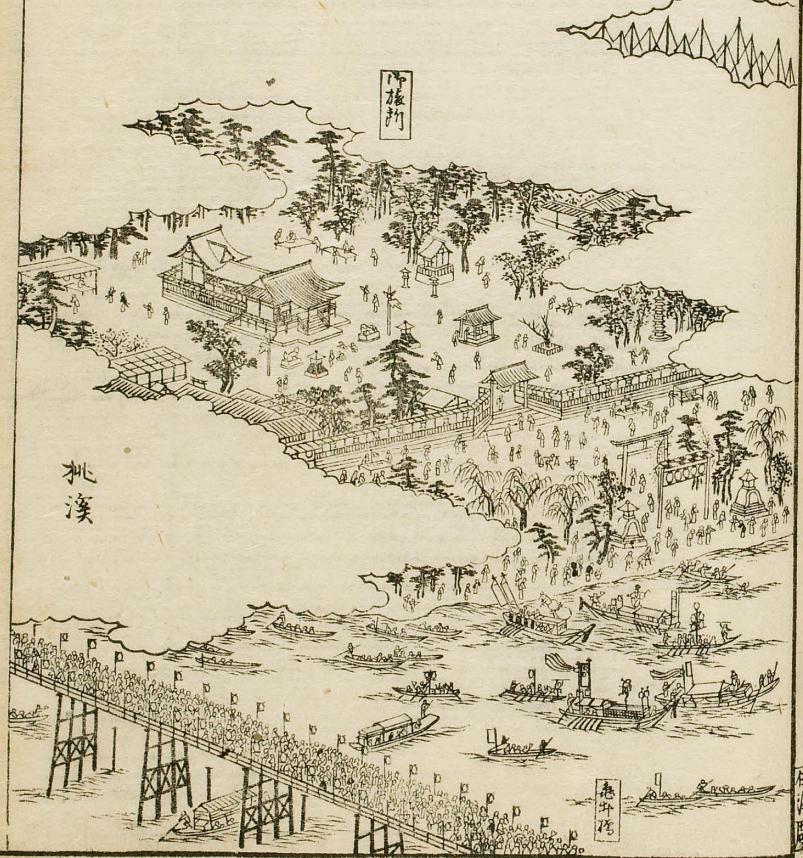
堂橋河面
神輿奉日





御
戎
嶽
滿
宮

其四



桃溪



神靈の還す年貢の衣
みづこのびくじの衣
沙金・シテサム・晚
のヌメル・シテサム・
と毎年御奉事の
日をうつ衣九ツ付
ナセマシヒキナキ

かく川の
流と浦
くまて船あと
安く舟輿と
運侍が
あり公費ひ
次とくひ
ううる

松屋宿

舟宿

舟宿

舟宿

大江橋

一名渡邊橋。近江川の下流今川橋。後成。成ツ。二橋が架け一。又備橋。萬百十五間。時。幅。八尺二丈。神橋長サ百廿二間三尺三寸。難波橋長サ百十四間六尺。是公娘花。

貞享年中。小のうく。

旧名小舟。號く。

ワのや橋のうてとけ。先きもむる。後の下室へ移る。公廟。

けくねえのは。ほくろんのあらそくつりける。後成。

夜ふくらへあとも。枕より。が太の橋は絶せ。ゆく。

鉢流。嵩。今。の難波橋の。くらふ。ふく。は。海東と。鉢流の。神車と。うしく。む。

京橋。故。川橋。向。金流。く。橋下。大川。入。南。金城。登城の。

鉢流。作。橋。之。櫛。監。葱。寶珠。銘。云。元和九年。造立。と。鷲。と。東北。行。原町。北。

相生町。京街道。北の。橋。小。又朝川。奥の。市。のり。

川崎。御宮。又備川。傍。小。の。圓。花。集。云。元和。年。中。松。平。下。總。守。匡。清。侯。創。建。

仁。寺。小。屬。次。と。云。云。例。系。四。月。十七。日。日。難。人。乃。系。源。公。許。一。申。御。院。内。小。親。若。堂。茶。師。堂。總。壽。墓。ゆ。都。て。社。頭。櫻。花。

英。豊。娘。嫁。う。

有。樂。齊。二。井。當。花。の。井。萬。の。井。梅。の。井。の。名。集。み。か。九。昌。院。の。や。う。り。あ。

西。二。櫻。田。表。大。神。西。二。輕。兜。尊。

村上天皇の御宇。天唐年中。勅願。よ。う。門。を。秘。めて。は。地。に。達。立。し。

加。引。タ。ス。一。

あ。と。も。見。ん。松。木。の。夕。か。く。美。

宋。誠。

支。山。堵。天。備。と。獅。そ。く。天。神。社。鎮。度。一。故。人。内。軍。祠。上。古。源。氏。

一。時。四。閑。年。鎮。守。一。其。之。輕。兜。尊。廷。度。末。社。神。明。八。幡。住。吉。

故。小。地。主。神。と。崇。奉。由。老。松。後。紅。梅。及。俱。水。相。及。白。太。支。出。外。持。社。福。治。三。所。大。藏。良。

祇。園。老。松。後。紅。梅。及。俱。水。相。及。白。太。支。出。外。持。社。福。治。三。所。大。藏。良。

善。社。神。事。神。事。が。勤。む。神。主。境。内。鎮。度。玉。符。并。同。

未。社。捨。扇。住。吉。松。尾。の。二。神。を。相。及。小。東。房。之。通。年。酒。方。

小。巍。々。方。封。疆。と。築。く。京。本。祇。末。社。と。遷。も。あ。四。時。治。今。多。社。内。

の。市。店。觀。わ。經。の。櫛。植。底。底。の。鍾。植。泉。水。の。金。龜。小。山。及。大。料。程。月。森。乃。

せ。日。の。群。系。空。表。道。小。満。と。鉢。流。の。神。車。六。月。廿。日。朝。大。江。橋。渡。急。橋。へ。漫。世。堂。修。公。榮。く。時。

さ。と。も。福。鷦。の。產。子。み。を。び。底。小。船。と。飾。く。一。搖。の。浴。衣。と。着。し。橋。柏。子。

拂て、羅波橋も倒り種との弊小快のと朝一飾人欣一樣の酒之懽子
太鼓と拍く涌玉御神輿の羅波橋もうち移すとまことに御圓の役船あ後割
一毛樂を奏して玄佐の序旅詣渡浦あり奉禮の船行列魏を玲瓈として
鹿苑の美觀あり櫓舟の櫻船川の面小所せよと双び降火機をとて幕引
を金属立つて稻麻のめ諸度變や家の紋桃灯とて船をびと
二弦をやう歌のきうるべくお抱星浮す昇ア龍水の面みやした帝中
の車樂小新津の姫帰の邊わ頗狂狂言限もすとあそと被笠の贈え京許の
祇園會活花の天滿がお聞ようも見る百倍かべー

松葉の九月廿日

免餓野

免餓野の前

流病馬あり

日本紀云仁德天皇三十一年春正月癸酉朔戊寅
立八月天皇女爲皇后。秋七月天皇與后居高
臺而避暑時每夜自起多可憐之情形及月盡以
日明愛天皇語御名縣佐伯曰當是部獻夕而鹿
日明其芭何物也。部言天皇令膳夫以問
對者曰是芭也。當為天皇令膳夫以問
是芭者必其鷦鷯也。

因佐伯謂伯部獲鹿之日朕比不和朕之愛以適
淳田此今淳田佐伯部祖也。謂伯部之祖也。
帝奉仰其衣。射之。君怪之。射之。帝大恨之。思
帝射其身。鹿之射其身。有破縫也。射之。帝射其
身。鹿之射其身。有破縫也。射之。帝射其身。
同卷云俗謂之白鹽塗。其身如霜素應也。汝之
為人見射而先即以白鹽塗其身。以射牡鹿。答曰
吾身是。當時宿人。心裏異之。未及二日。有獵人
射而殺之。是以時人譖。日鳴牡鹿矣。隨相夢也。
免餓野の一名。本集に左近中將公衡卿の奇あり。
免餓野の鹿の事。謂之免餓野。而其證歌。故
事。御通之。其證歌。

あひて治定めに圓鏡を免歸せとす防二名の證歌多一其一二次
くに揚る乞座の爰也も後世社撰ノノ影也

押眼やみはの極に小舟からくはけ坐の麻の葉を伏せ小

津風法作

月かけ伏せく霜かくやくさんほけの麻の葉をうむる
衣で残し称を乞ふゆゑあはれの爰也の麻の葉をかくやくさん

源師光
萬り法作

日

あひてやくもとくさんほけの爰也の麻の葉をかくやくさん

七明

攝津國風土紀云
雄伴郡有夢野一父老相傳云昔者刀我野鹿有牡
鹿居此野其妾北鹿居於路國野鳴彼牡鹿屢
往野嶋與妻相愛無比既而牡鹿
且牡鹿語其嫡嫁云今夜夢乎而牡鹿
此月支矢又日射向其夫復向之祥又雪
祥渡淡路ノ野嵩者必遇船人乃詠之
復船終為射死故名云
此野曰夢野云云
文滿ノ町小あり諸云營神初鎮度の地之むくに所小靈松
文滿ノ町小あり諸云營神初鎮度の地之むくに所小靈松
僧日羅協年詔賛子大連襪手子火連冷枚草時羅於小郡西畔丘
此野宿ノ宿所明利御
船人射死海中遇逢行

升上

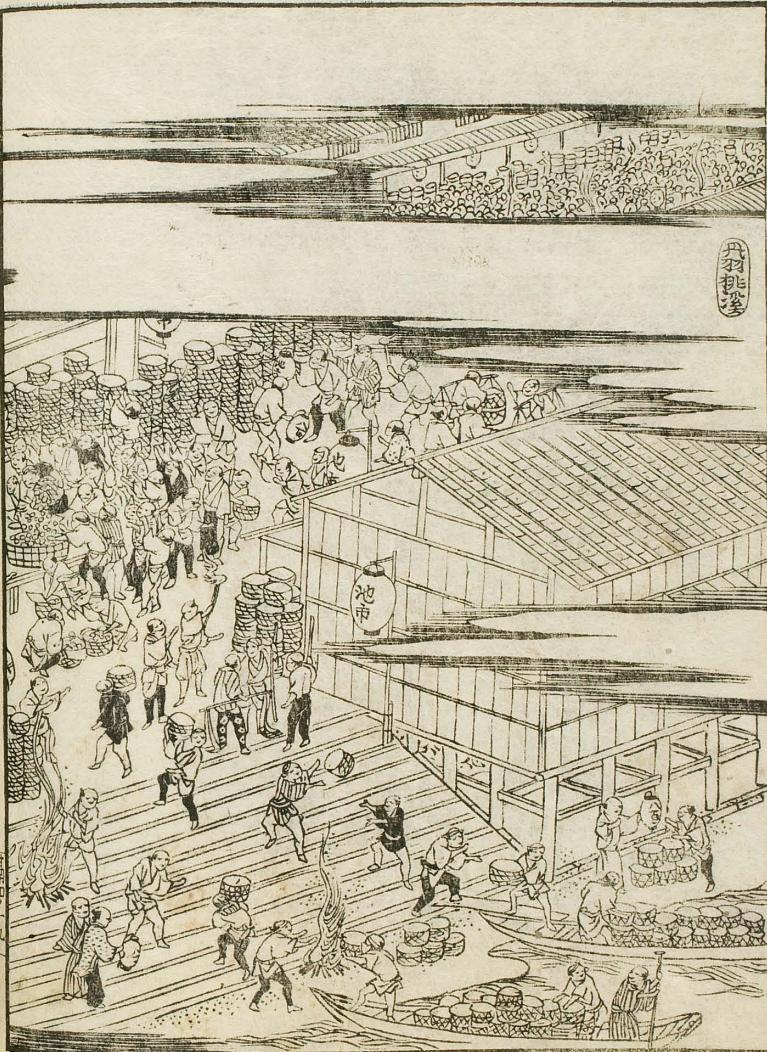
朝來池小郡とある成郡
興正寺天滿十町目像女史也町の東小ありは此かく那懶の用はと見て小よう爲る
寶珠院天滿十町目像女史也町の東小ありは此かく那懶の用はと見て小よう爲る
輕子社天滿十町目像女史也町の東小ありは此かく那懶の用はと見て小よう爲る
魚山宗因墓天滿十町目像女史也町の東小ありは此かく那懶の用はと見て小よう爲る
其外末社多々毎祭正月十日祭矣次
延寶の姓也人也隸諸侯也其後に代源海上人の廟基也

天滿川より中央より北源方から名令右太玉令と余房

作の

夕の人もりくま一けけ乃至
支の秋や東もかく小月も西
有田の波を絶するやくも皆春
家入も宮も茶韁の旅酒代
ちく病や無く別かる墨

宗因



天瑞菜蔬市

市場へ天神橋北側より龍田町すぐ慈側通三町辺乃前
天神橋より下りて西市場上を去る東市場といへる處人天神橋より
下りて公西市場上を去る東市場といへる處人東西の市場天神橋より上
龍田町その中多くの通称へ向左に十軒中實百五十軒とし

布揚日朝毎多々人聚り菜蔬を賣

市場の天神橋活芽演院風物杞丸加木ニ葉芥波蓬菜ハ木津難波の
天花菜鴉活芽演院風物杞丸加木ニ葉芥波蓬菜ハ木津難波の
名産天王寺蕪様鴉菜菔海老は冬瓜揚圓浦の海藻住吉の神馬
44 難波の麦草演村瓠蓄ハ衣小奇筋多々批とひ休見益宗筆壬生
栗市ハ九月帝陽のあ二三夜ハ松明施灯を多く點して夜の市めと申され
又は西月上旬より紀の海士有田の両郡より蜜柑数百枝奉り御走せ日
本ノ市あり原ハ市場ハ江古泉橋南爪小於く年々くわくと之が慶安の
次其跡官家の市用地となりて東橋行原町引移後あるのは本小領ありと
替地と免許ありと今の方引移と日々店舗を飾りても芳ぐつたやと申人

立すやうや人あり活人ありあだりて此事ハ乃ふたゆ事か一淺か納言
の枕州弟小市に辰の市様布をこの市志の滿の市あそばりちまをへ
書ひめねどもし市公を遣れし事へ大ひあり憾きとぞ

北野天瑞宮 北野村小市一族云當云此の御財福傳小市船底繫せ

久一難波往古の御子孫圖出でる古地又富庶とく古老乃家

梅塚天神 紅梅又く樹下小天神の祠ありは寺へ初め基土士の

陶基ありと今ハ慈雲山常安寺といへ

天台宗京師梶井門跡小從人

稻荷山 日蓮宗の寺成核とく徳者と鎮守とく

不初堂 弘法大師の化長式と許

神明宮 烏天瑞の寺あり宗神天照太神社記云むく左大臣融公難波

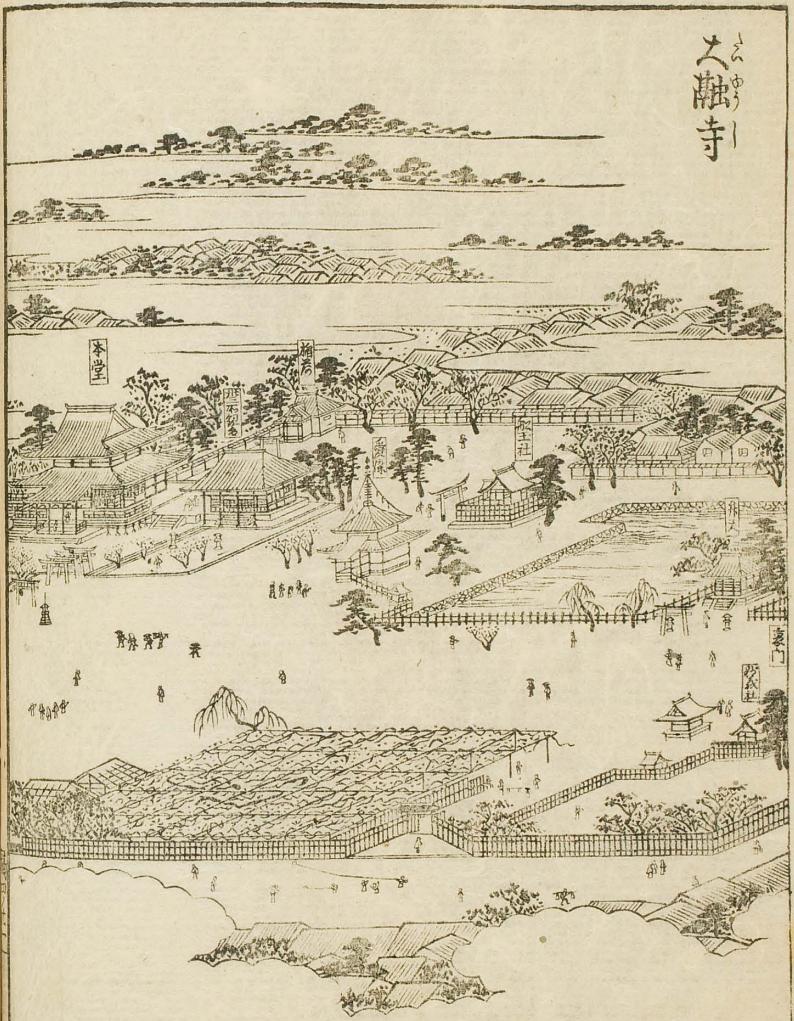
福傳小市く源義經原系時逆據の御あり一時廷尉

義經當官一願書と收む其外寄附地等今あり又

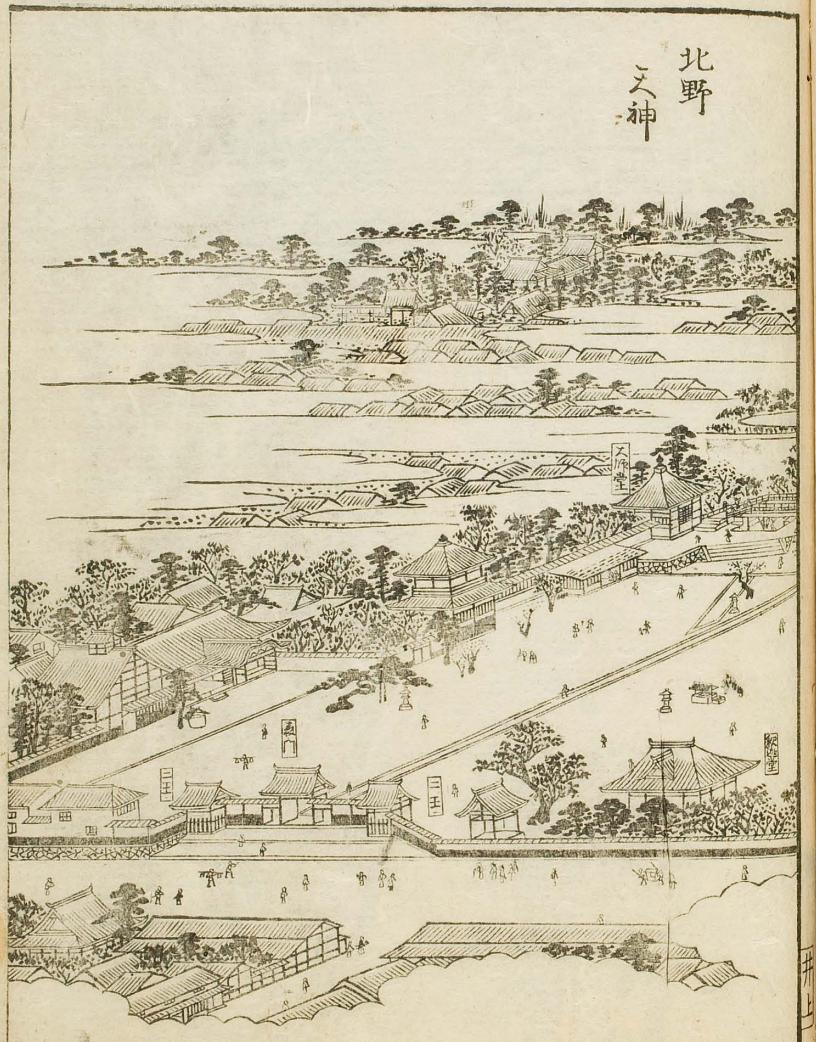
後醍醐天皇治承年中當官勅頒

其時社頭も魏々とく足利尊氏乞乱の時荒蕪し今僅み
遺る如例系六月十六日世俗上町大朝日と号し内正里町と照日と
号一當社公夕日の神明とひえと參其燈詳くと次

大融寺



北野
之神



桂木山大融寺

北野小あり古義真言宗

本尊千手觀音

護摩堂

不動の香爐人作能度儀式人六寸又弘法入師自他的執安に毎日毎日遠近きたる者と云ふ

愛深堂

肥州鶴鳴候より寄附

巡禮觀音堂

延國三十不の親者次安至次

毘沙門天

本堂の額

觀世音と書次

南岳院山寺

毘沙門天

高野四善庵小属次

鎮守

舟大船高庚申船玉等の祠あり

釋迦堂

十六羅漢と安次

創始

嵯峨天皇おとて散感のくく大悲の多容を寄附

創始

其に則ちまことに本尊と同帝の皇子源融公、條源原院公達

開創

陰奥を賀浦の佐竈と模し、羅波の御津の浦より日毎小潮を汲せ御遊

創始

ある其後ちく小游參りをして仁海上人遺命令、寺院を建宮

開創

之の地をもとて免餓野の龍野と云ふ

開創

桂木山と號し、融公の碑と以て大融寺と称次又其

開創

以て弘法大師真言の靈場とす。星移也換てく逆乱の名、諸堂荒

開創

廢して大門の門をもつてあらひ三町をあり今字とある其外寶塔樓閣

開創

の跡みが田園の家をあり浴室の浴今風呂小浴と耕作の地を

開創

後世快濟上人あく今ゆく再興しむかふかく甚き堂あれ

開創

藤波繁しく嘆き生じて傍人の眺とあうて賄ひたる利く山地名

開創

床の毛とて免餓野の龍野と云ふ

開創

什寶。桂木山の寶物。嵯峨帝所守。弘法大師の御りて入院院主尊

開創

二月初日當國吹田莊公守奉とく賜る給旨あり。又尊反將軍

開創

當寺者に原左大臣融公之草創一天不二靈場也依有心願

開創

寄附攝州倉橋庄一分祈々太平。欲遂二世安全之願。依

家附狀如件

建武元年八月朔日

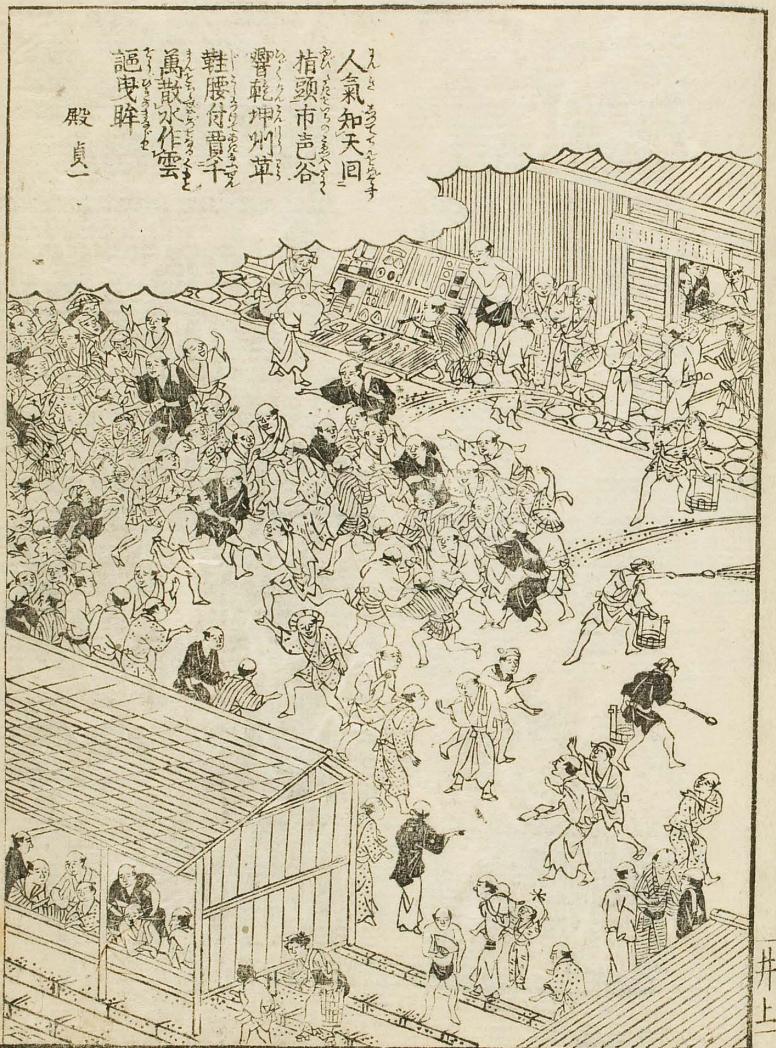
大融寺 在判 尊氏

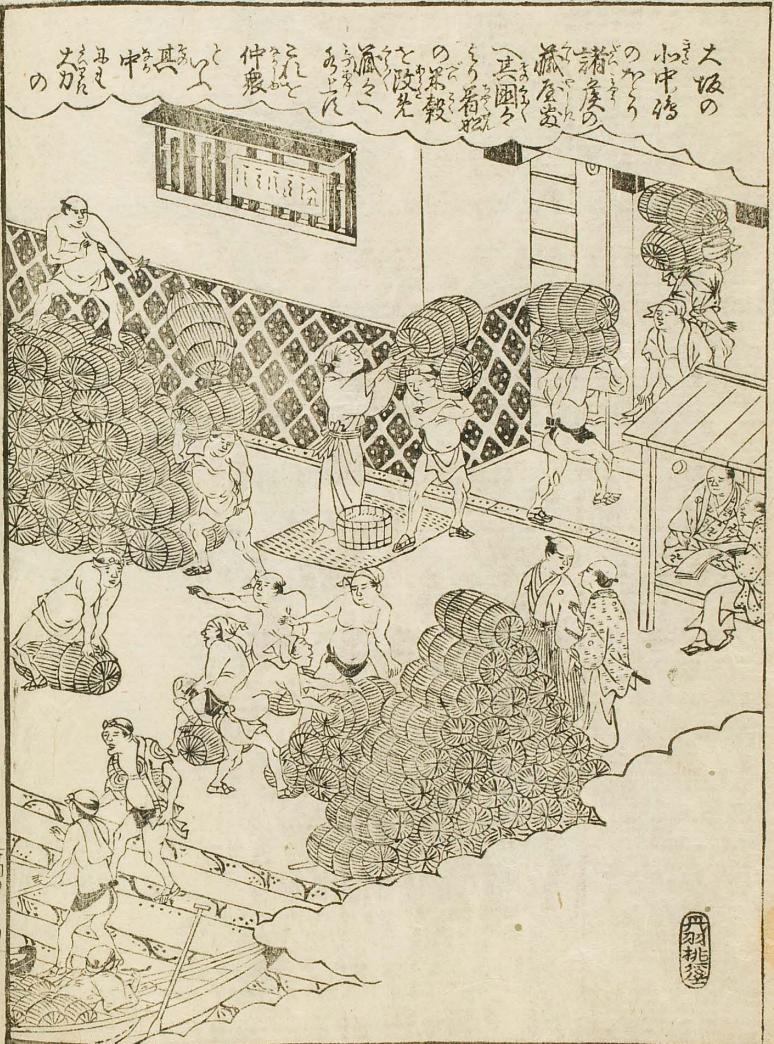
穀堂
嵐
穀糲糶

正徳元年



正徳元年





堂

嶋の市立を雜穀と雜糶あり其家人と立小卑且う斜陽手

街小駄もく指頭と搖して百万の解救と相対に其囂した事ひん

方る。其年の豊西へ時侯の幸災天地の順不順よりと要た
あら卑きあら其高下の極と帝親とのあまこと又須臾ふ遠き幽く

すともかくとやふわむ御ももと粗ひ帝の捨え本原ふみ

俗旅云、天正年中、今之淀屋橋爪小淀屋巨菴といふ豪富乃者

あら豊太閣の旗下、多くの軍糧と運送をう年々、其恩賞を

して名画の鷄と賜へ賞と美金の代とあれど是は遣唐使の時度の

玄宗帝さう平朝へ獻せられ、寶昌へと至巨庵が家へ信繁景と國を

の米粟菽麦と實徒てし橋爪を毎朝市を立く諸人小賈と其社

據うちれをば家級て後今之堂島もく市が亨年へ淀屋を遺聞

あらと玄廟へ一或カ云今之淀屋橋もく家うち橋爪へ

つへ近鄰五院堂とて、風流者あり原の塔山と曰ひ羅山

文集ふとくら黙然しきひ野原をく貢享の所

拾うたや百万斛どうかとく鷦牛の角比争ひよとん

九鯉

宿天神

是より泰文神の跡あり又老松町より老松祠あり總じては古俗より

の新地堂、舊新地といひ宝永五年の開地にて小賈しく夕暮り

兩側より到の魚河岸や豆川へ芝居の紅顏若狭の妻ゆきりく樓上に

あら琴曲系弦の老簫しく射場あり西の町端に編笠

茶室とて江納と號しく鶴納と名づけ名庭とてみ是之處

神の餘光やくし

眼

神八幡宮不動寺の南より諸人眼病取愈本術より土細工の櫻井傳

龜形松田裏橋南爪諸度第の通本ねば櫻上より見れば龜の形ふ見ゆ

玉井流石殿橋南爪玉水町小花の名前より四時消滅みしい

櫻井

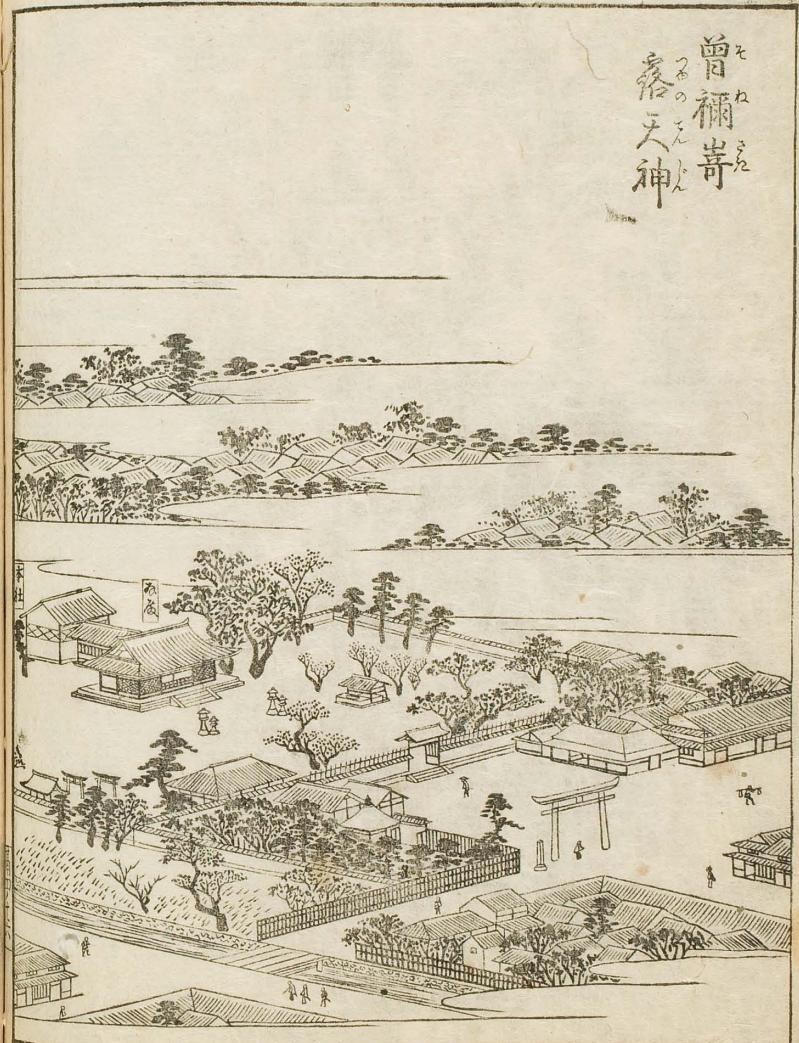
船の附へ駆りてくそとく

小傍やあむ人の初一ノ

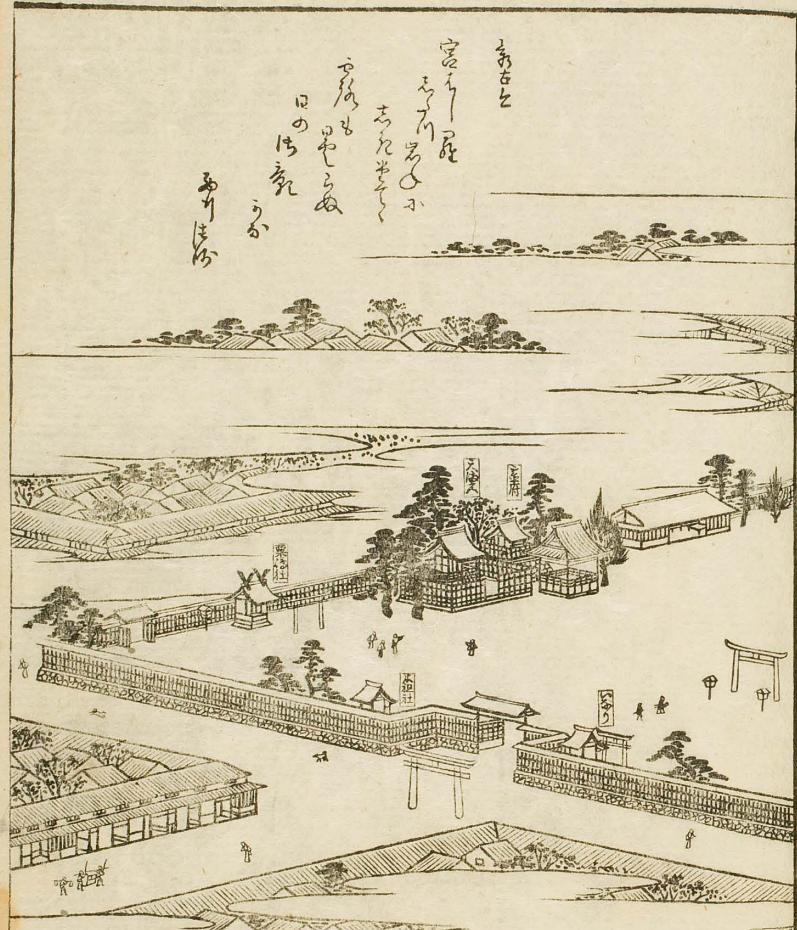
大江九

曾
禰
嶽
天
神

そ
ね
た
け
じ



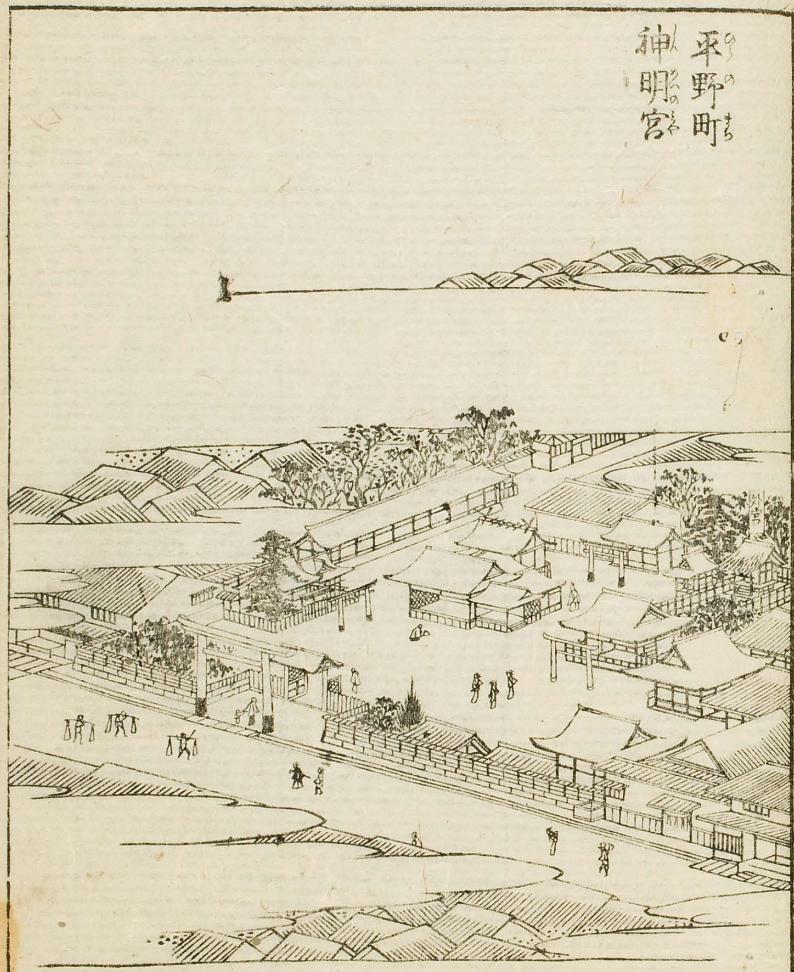
西之浦
神明宮



野釋龍巖叟主中一結衆等
治工町家次等
李秋吉日
藤原家次等

寬 賢 皇 源 左 是
將 軍 疑 道 君 皎 帝 宽 使
寬 永 音 地 一 清 仁 國 大 華 鎔 者 矣 千 月 萬 鳥 祐 大 歲 鐘
十 無 祇 百 平 者 家 樹 鯨 金 也 蓋 期 懸 歲 氏 裕 臣 甲 銘
一 盡 劫 八 世 有 父 作 鍊 夫 古 西 新 之 鈞 戌 曰
月 時 石 声 界 勇 母 形 丕 無 亦 山 鑄 基 命 之
闕 貴 有 夕 鴻 鐘 也 被 秋
逢 有 響 無 慶 撃 人 獬 當
闕 大 萬 風 晨 不 無 殿 當
茂 消 通 護 明 民 不 昏 費
主 日 天 丹 無 蒙 鳴 報 鉗
工 供 神 墟 私 慈 枝 之 鏡
町 畜 銅 石 銘 龜 烏 故 稚
家 等 群 降 臨 魔 速 破 爲 太
次 等 群 羣 群 群 群 群





平野町
神明宮

神明宮 内平野町より奈井中央又照太神 左ハ幡宮右裏日明神
社説云初ノ洛西の西院あり元和二年松平下総守信延
翁頼成就主上所と仰せられ勧請ありて又勝津志云番社众灌津
王子祠と称次又波多王子ともり然也記小豆寺御祭事より
亥未ら六月廿八日松平九月十六日より毎月一六日奉事し社頭
御末社かくあり

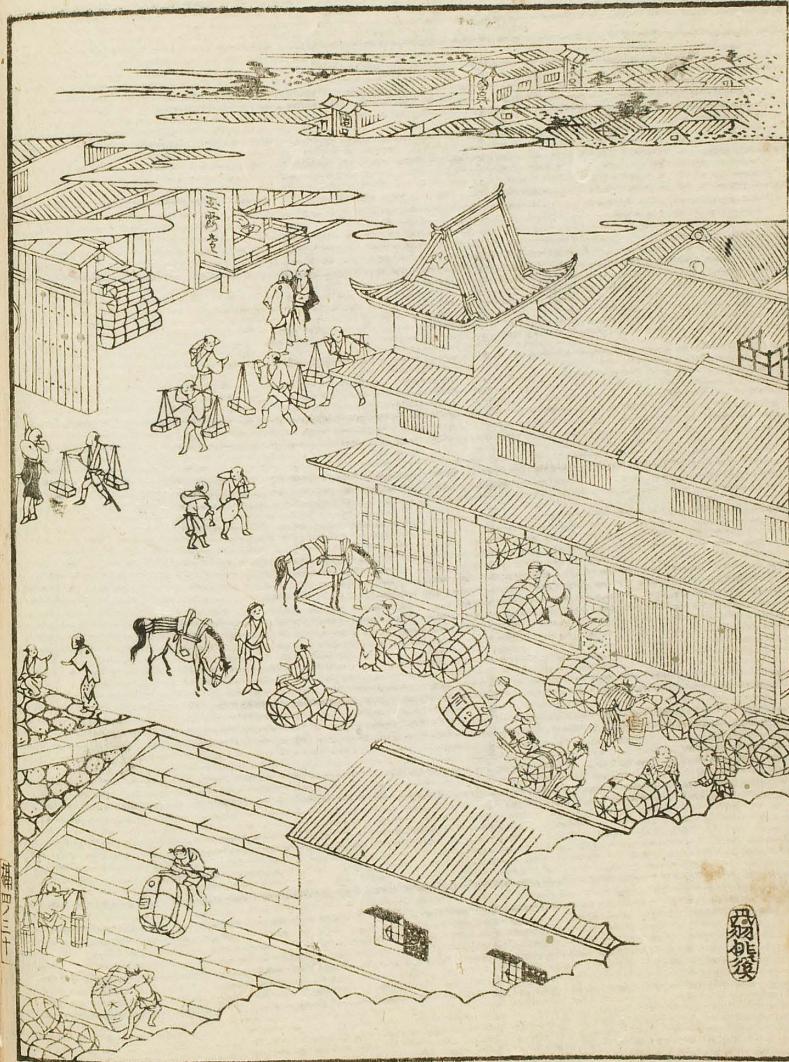
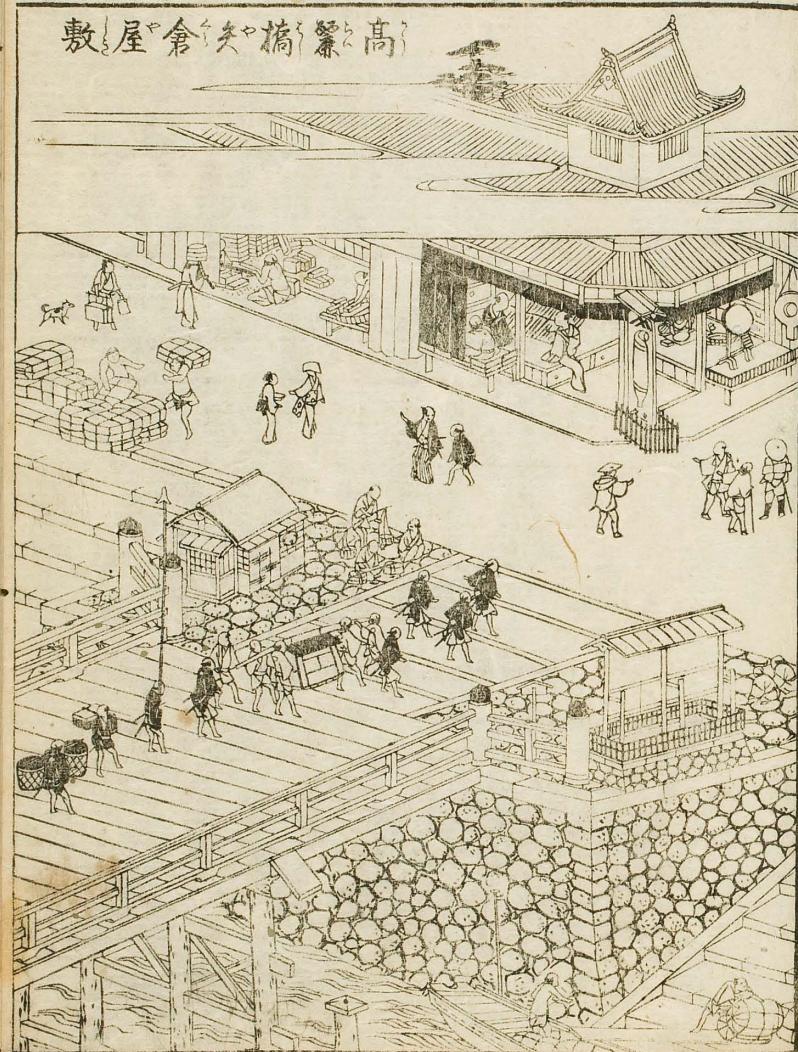
○因云はく内平野町の渓内(庚申)通南の角脇蓋(表)十五間半奥引十六間
許小居後せし文書を今猶存すとひ裏富の町人ありえ和已後あくた位
某年寄役町奉書役と承帶(二代目)へ利毛傍と改めえ保七年の
又九山多傍と改め其領播州赤穂城(所)矣(出入り)十一年の時家老
大石氏小額(きよ)と調(そなへ)れり(ひきの)人少す其家も今へ滅びく居
住の所に九名を置かし跡かゆき今小松傳(一七二)作

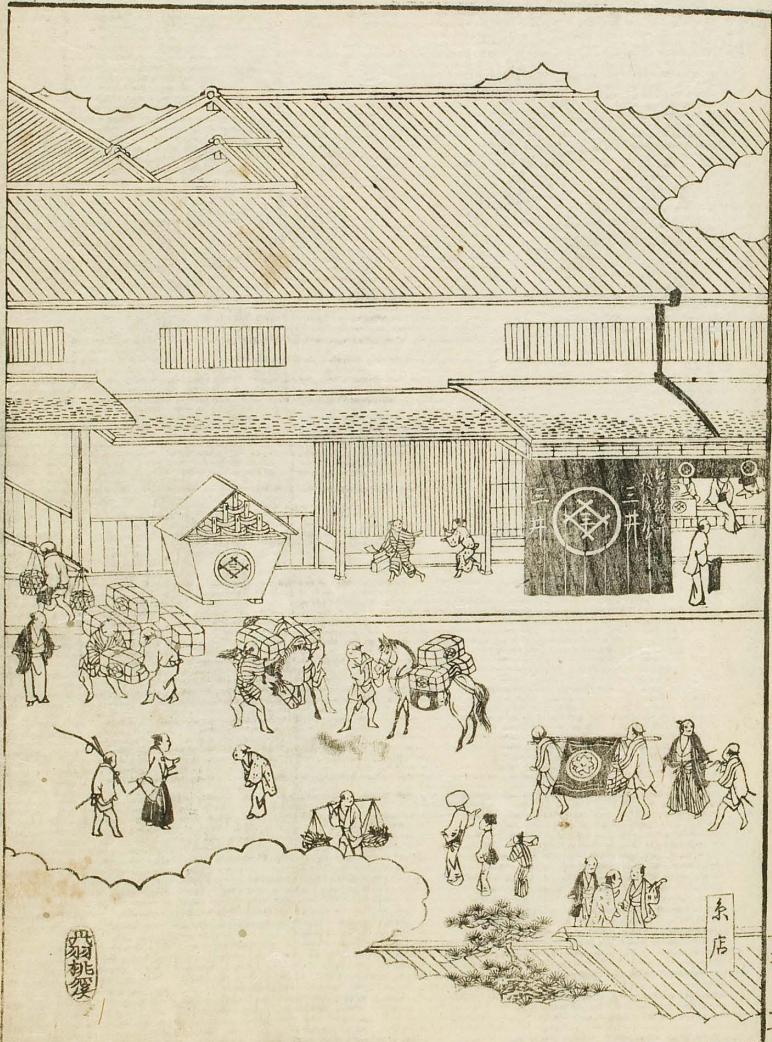
高田專修寺前所

高田專修寺 所在谷町二丁目よりあり野州一身田の惣所故津寺と号す自居御坊人
久保伊織(いおり)とく名の漫頭(まんとう)と涉(わた)終日

樓屋敷(ろうやしき) 高櫻(たかざくら)梅(うめ)加(か)ふあく又櫻筋(さくじん)平(ひら)町(まち)より西(にし)小(こ)吳(ご)役(わく)人(じん)市(いち)底(そこ)多(おほ)一(い)又(よ)三(さん)町(まち)目(め)

高倉屋
穀持矢







高
櫻橋
虎屋春蘭店

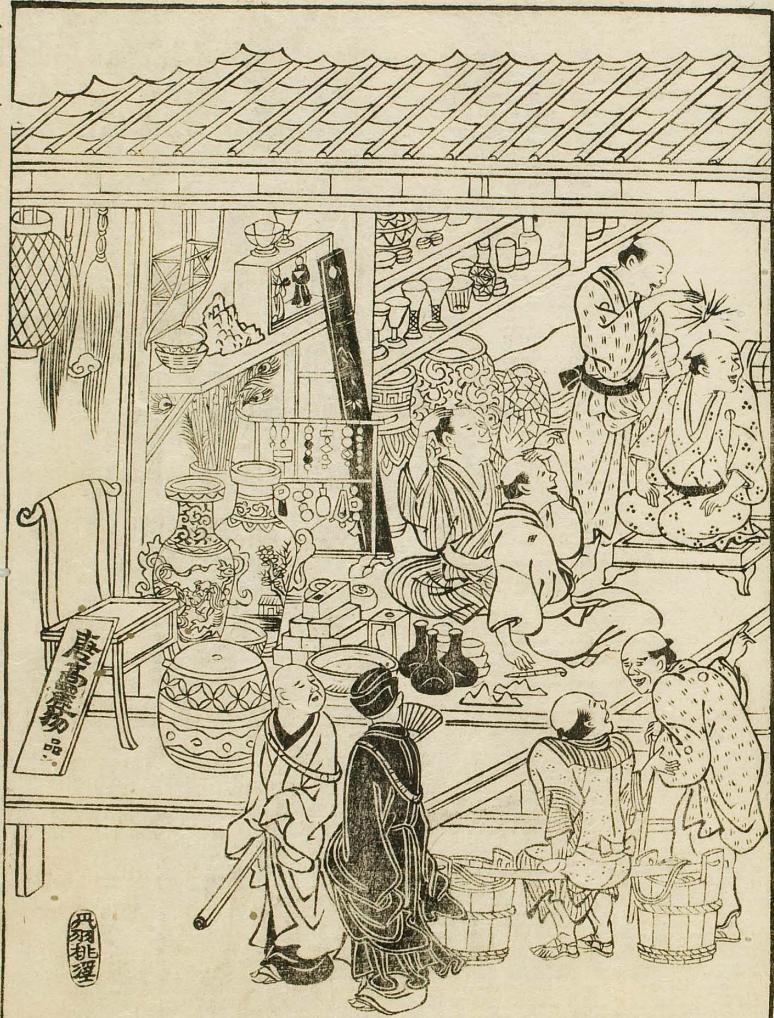
虎屋
饅頭絕五丈
店前終日百花群
信牌通用實銀札
千里美名似走雲

蘿鳴

御菓子所

藤原田





圓御靈社

（ひづるのやう）

- 鳥居額正一位御靈
大明神
- 持明院家の御靈人
- 一鳥居額大官

ト部家の御靈人
鳥居額朱塗入

○神水井神蘇の
内あり

○神樂所本社の
小あり

○神樂舍二神樂



御靈宮

船場東野寺町西龜井附

業神
二座
社記云天照大神、櫛宮一座、上古の鎮社へ相殿。立原正靈神へ至德元年鎮社印

皆水と御く相殿。水崇を奉る。神主相別。攝倉坐至。やう小室坐に其靈安處。事

作年子間とくべ社の為子めく。芭布良神祠もしく又圓者に津村御の古号。持せ奉

其一本今ふわり上吉神功皇后二韓御征伐の時御頭を芭布ひ拂。勸教乃後人倉主

芭布良神二神の神徳公頤。浪速國小到くは北坐し。向て車回史あり。下が北坐

神徳公頤。車浮主神作あり。と云則本社の傍小道在傳。大神也。

正月十日 神祭式

四季おめりあり。

佛光寺妙所

油煙齊貞柳蹟
芭蕉翁終焉地

芭翁の其角の枯死終焉地より。改めた。芭翁の死と月の未

全

詩文

族小病く沙先モ枯れんけむる

东寺坊

高麗やらにたてて。又る芭もか

山一案ハ先師那波ふかにて。園女。植根。ふ

是々やされし向ふこれも。甲成の林モ月の未

アゲ。まよ。所生。あの芭。名跡。とねり。入る

詩文もよし。今。うみ。ふ。ふ。書。障。る。う。そ

え福幸已のや

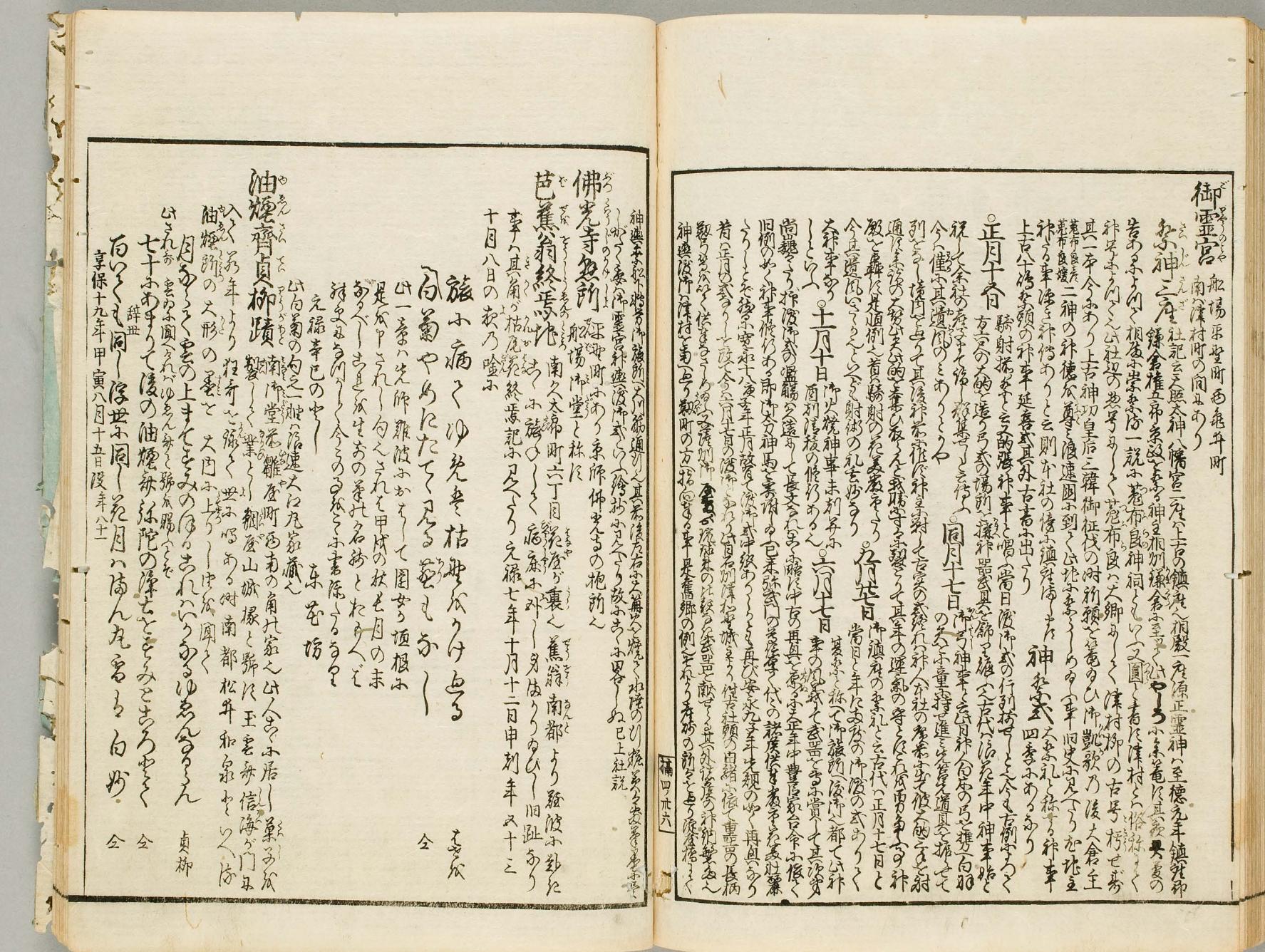
芭翁の匂之。油煙齊貞柳

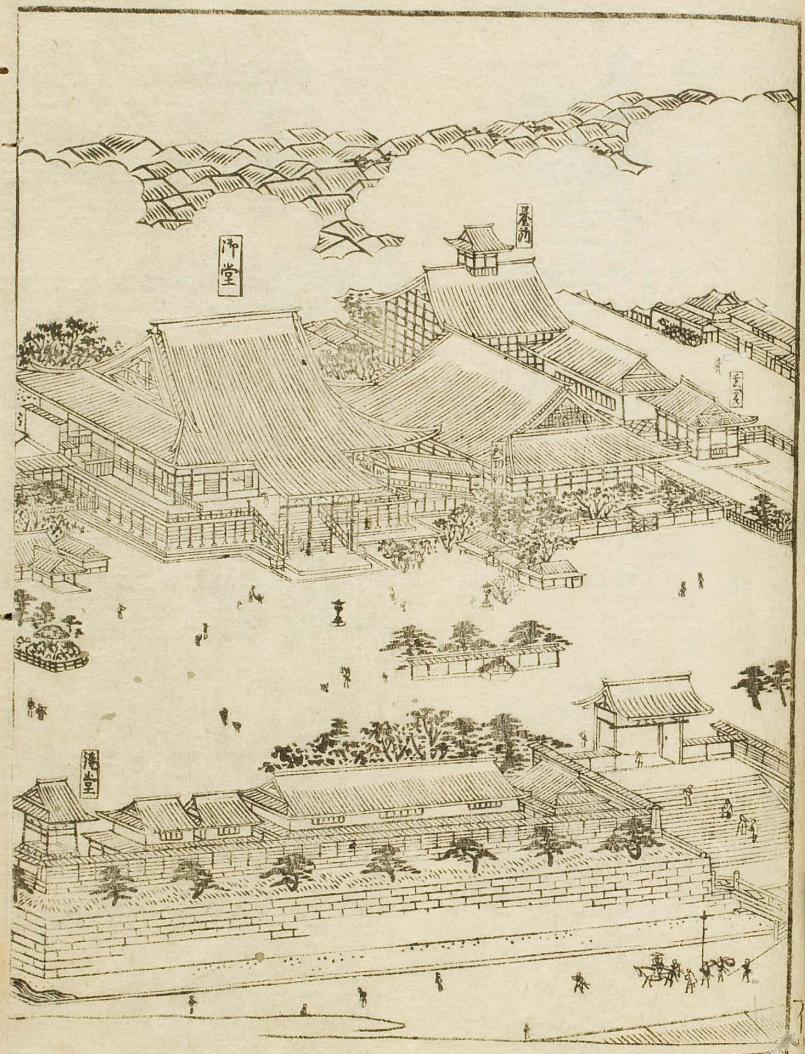
芭翁の匂之。油煙齊貞柳

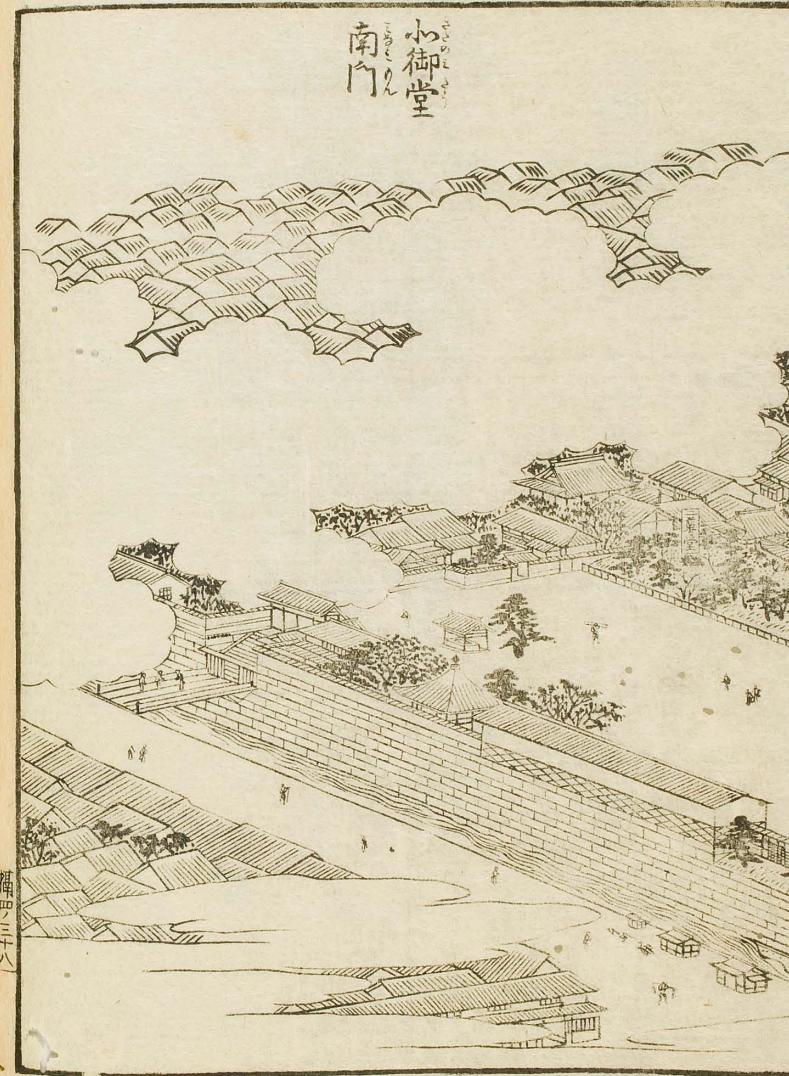
芭翁の匂之。油煙齊貞柳

全

享保十九年甲寅八月廿音漫年八士







津村御堂

御堂筋本町の北小歩
西辛須寺抱所旁津村の圓の前より人

本尊阿弥陀佛

安行林化長三尺八寸兩脇燈小向山觀音堂人教

二尊堂

御堂の東小歩向山堂人蓮如上人の

對面所

御堂の東小歩莊嚴堂より又小庵一御門往下向の時

又朝鮮人朱廟の時

御所止宿次

鐘堂

物藏の方菜地

鼓樓

之上小歩

茶所

落人中少憩

本堂

東小歩

茶所

落人中少憩

本堂

中裏町底第六十間安吉町に十間分畠畠と境内

本堂

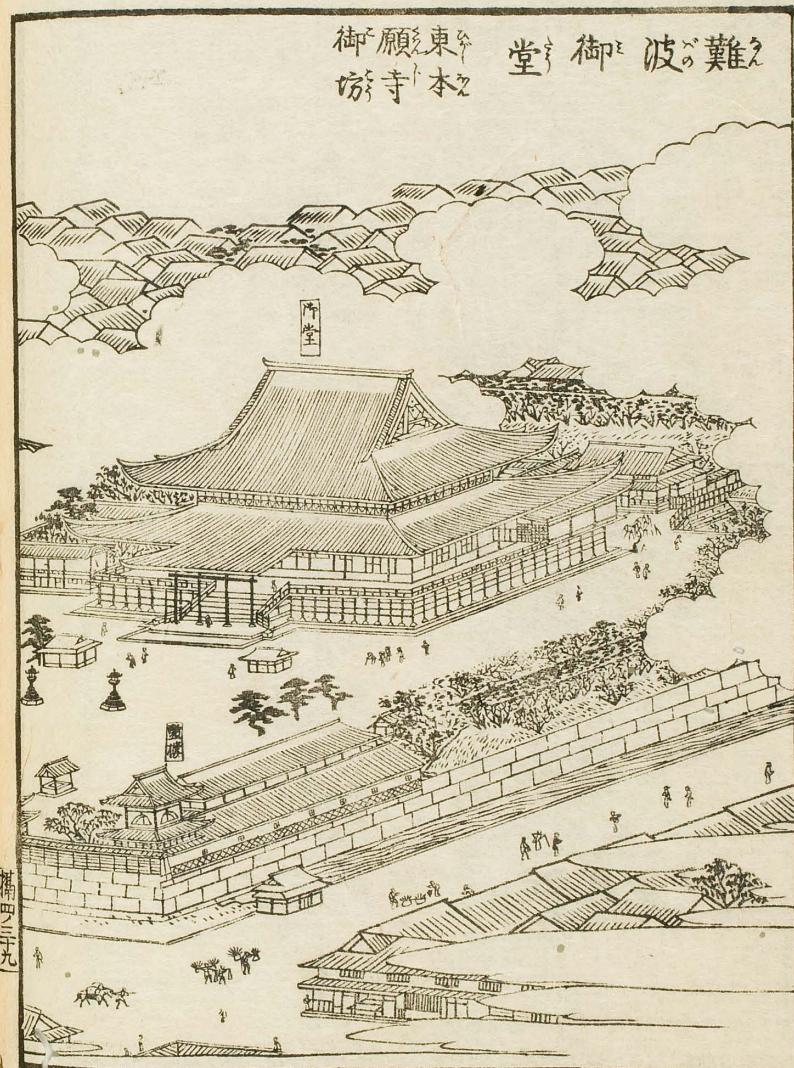
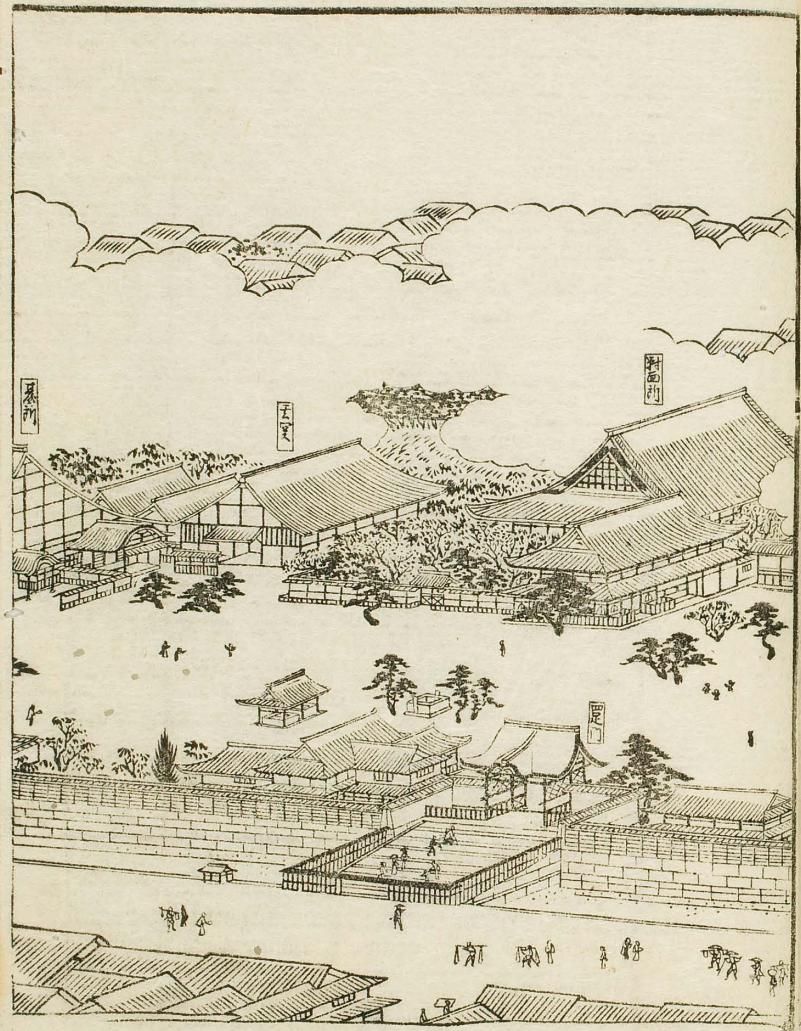
中裏町底第六十間安吉町に十間分畠畠と境内

本堂

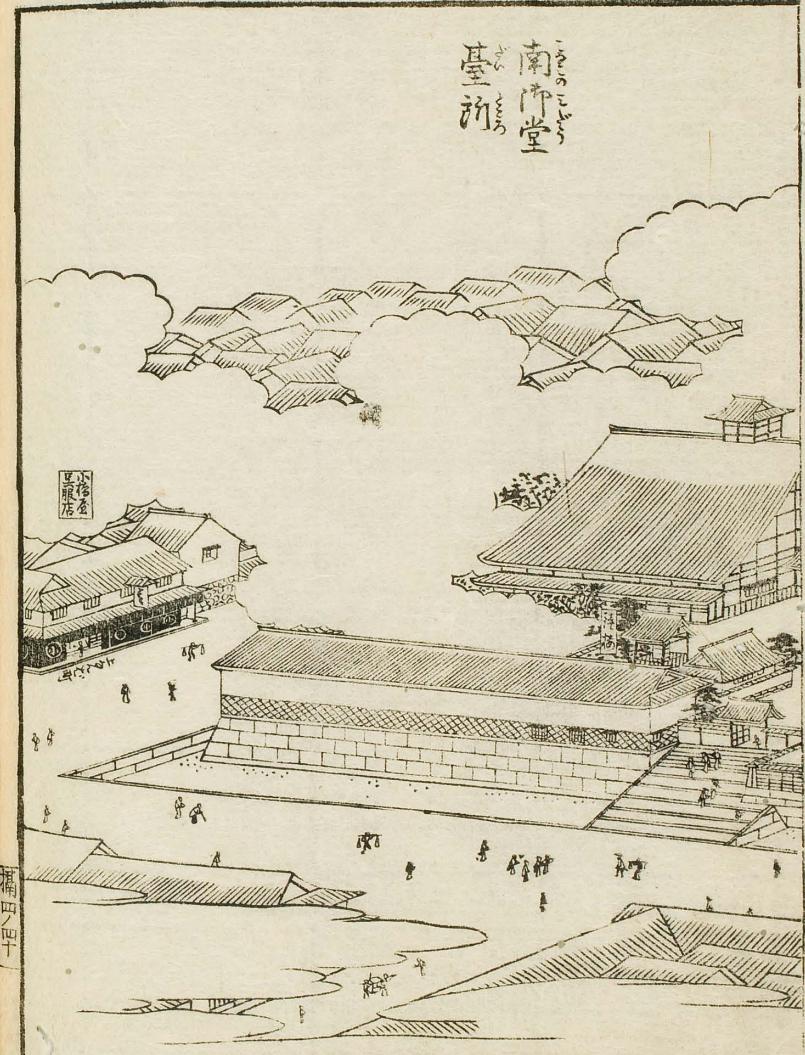
中裏町底第六十間安吉町に十間分畠畠と境内

本堂

中裏町底第六十間安吉町に十間分畠畠と境内



南
神堂
臺所



羅波

御堂

御堂據之太帝町小あり製御堂又南御堂とも称次

奉尊阿弥陀佛

東源守猶守の抱所也

御西所

御堂の南

書院

御西所の

鐘堂

御堂の巽

唐門

御堂の前

茶所

廟門の内

窟門

御堂の後山の方

中興第十二代教如上人

將軍宗義台金次第之御賜之羅波

御坊と称之初ノ文祿年中

从之乃修町を町目小ありく遼

慶長の末

小山地御堂と移され南北有御堂とす壯嚴

龜體あり化及び

比數ありば築板の石多くく南北の方へ土壠灰

第之上に映山紅山

躋躅と多く植え盛り花色爛漫や

生木の被公輝一

御中の杜觀

享保十年己十月

造化の御堂一

東御内跡御下向の時里

木林繁茂そありき御堂一

足利のふよりよれ御恩おも痛かく產生後平

御若公宣をすと周策一入を

續もこれにちくひれ御あれへちう御基一

御坐と頂戴しも

物の名を不ふうてち黒比御益もひあがみつまも

全

編集
貞祐





上難波仁德天皇宮

上難波町より社説云世人皆祭焉と称ざるハ祀う

祭神鷦鷯聖帝

古殿の額攝津總社難波皇太神宮と書ひ社記曰肇

後世至年中金城市造建の内神領地小内

上難波小橋にひく舊社の附後二條院の帝位后沙門寺小尚社へ移し其内へ延久入年二月

將軍頼朝卿及び足利將軍家社廟ありて

本社の左より萬道權部

神領義用より今上難波下難波の如く

本社の右より萬食と饑糸附

將方神祠

牛社の右より

大照太神宮

時名祠武内祠

末社武内祠

其外二奉

神樂殿

神樂舍神馬舍繪馬屋俱小社頭

藥師堂

安蓮院

順慶町の夕市ハ四時たせに夕暮もろ万燈て日極きの品々飾て東ち燭筋

西へ新町橋まで

兩側足地もあく連まつて松ノ木多く生つて群どお

其好小隨

ふく店之小生る衣服あり通具あり袋めあり

柳筍あり珊瑚

馬瑙の珍瓈瓈

五日之内

行者

草寒冬の孟宗

年生をも立賣春賣匱一派者川の流域平く年の

市爲文

花作業アキラカに菴茶の飾也何や極賣核儀裏向

鑄金茶行店

又新舊德才羽子板

木板門松賣梅匱ひ考之かく甚年もむれハ年玉也

のからく臘月櫻勝

桃の花不吉色ひ柳樹松木年をて綿とえゆ

你生の雛店紙雛衣裳雛雛の御殿

小左近橋御通身湯あ拂人煌

たり板端牛の花火深懺紙懺

懺太帝武内臣頃光朝比奈橋御慶牛若金

時旗持

そ威風凜々と鎧甲裏をのども也盡みの曲

身燈籠切子

燈店宇陽生萬の花万菊千葉千葉

一是の松乃とく新町橋

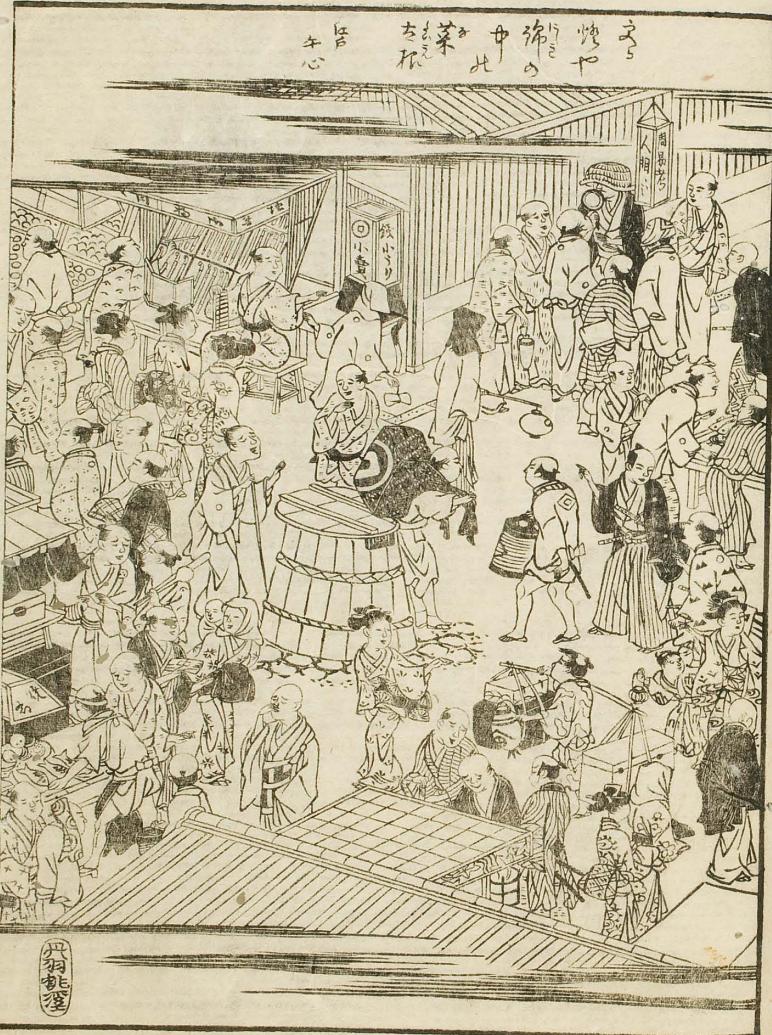
の時朱雀門の官市もあれどもへ傍らとぞもれ

の時朱雀門の官市もあれどもへ傍らとぞもれ

曉の達衣圓

もあく玉市へ神農氏も肇立ひ年朝のむ

入内裏

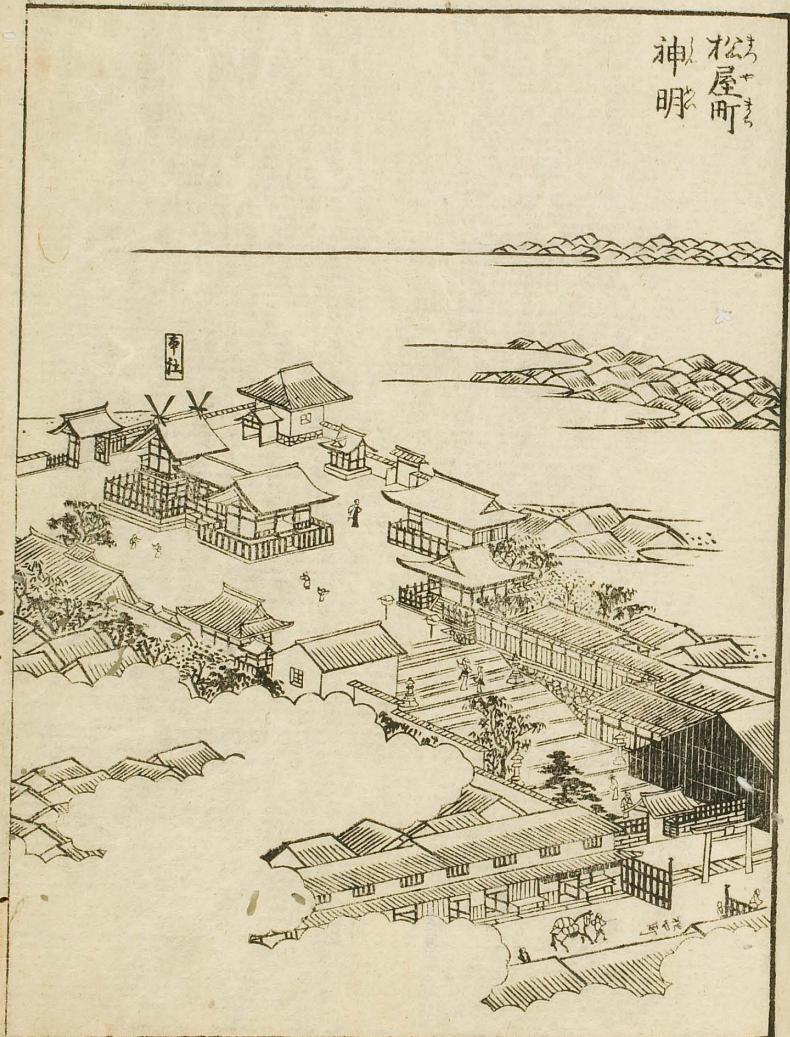




水の海にあらは
石の山をもととす
諸國の名石立
石の名石也
其の名を有す
立石名石也
其の名を有す
立石名石也



水の海にあらは
石の山をもととす
諸國の名石立
石の名石也
其の名を有す
立石名石也
其の名を有す
立石名石也



油
急
地
藏
 安堂寺町を町目の櫛小姓に石佛人形頭の都神と稱。故ふび名ゆ
 拐津志日日本紀小名くち安殿寺の石像へ背面小云平十一年
 安殿寺の鎧ゆうと鎧今あまく原の小鹽城
 今の大堂寺町も安殿寺の鎧ゆうと鎧
羅
波
業
師
 薩町心安榜車町小ゆう卒尊業師伴弘法大師の龕みく
 長八寸三歩古ら之台の寺院も。羅波業師堂と號。次年久
 安延に毎月八日十二日羅波業師と法会あり
 荒廢々々んや卒業民家み供を近世あふ
現
成
比
 ばれみ井ありむくへ唐た花みく巡り小行家の跡と生だ
梅
檜
本
 梅檜木筋小太本の梅檜ゆう故ふ名とて又其側小姓ゆ
 功皇后御船をさくに埋一地へ船の形み化ありとく詳ゆく
朝
日
神
明
宮
 松塗町筋安堂寺町の小ゆう世小連櫓社とし源義経櫻原
 王子祠じゆく御世御幸記小名くちあ見之故一王子すくぞ則え照太神
 ゆう神寶小多田備仲公源義經櫻原等奉附一ノ松櫻社へ東向く後世西向く
 論の岩櫻の岩とて説めり詳きく
寶
泉
寺
 宝泉寺町小ゆう
 女傍持舍ゆう
本
尊
正
觀
若
 聖德太子の御母太子の乳母蘿髮の後四天王詩唱聲堂
 再興一あくふ
 移一あくふ
尼
相
親
若
 谷町條王本町小ゆう和勝院と号す卒尊親立寺へ奉日の龕
 七八守護内小紫藤の相あり故ふ名とく
 摂甲六

茶陽地藏



藥師堂

北谷町小あり薬師の石像あり、長を尺五寸許其外太頭市中出世薬師ハリ基に龜アリ初メハ天端小あり今姫江新堆小安金に又立薬師帶重町小あり山薬師併ヘ衷心の龜又西町小ありあれも同龜多く長八寸許又堂傳永泰町の薬師併弘法の龜も長を尺二寸许小愛深明王公安次同龜又觀世音菩薩安次妻日の龜又常安町の薬師も同龜も不動尊へ覺後上人の彌勒と仰又小右湯門町の薬師も長九寸七分五厘慈覺大師也此龜又日向町の薬師も金像也長四寸往昔首泉州小本庵内郡山長者守卒尊く初ノ農人町を安置して側小清水作ゆう故に是れは小薬師と仰又安治川南側小あり山薬師併も慈覺大師の龜也立像も尺八寸許脇士の十二神將も古代の龜と見ゆ

茶湯地藏

茶湯人情傳百向長をの角小あり石像あり長八寸頭額乃ちの聚樂館古蹟

茶湯地藏 聚樂館古蹟 南谷町の東聚樂館聚樂館から秀次公城ゆく後慶長の三月某日御生見宜堂

聚樂館古蹟 南谷町の東聚樂館聚樂館から秀次公城ゆく後慶長の三月某日御生見宜堂

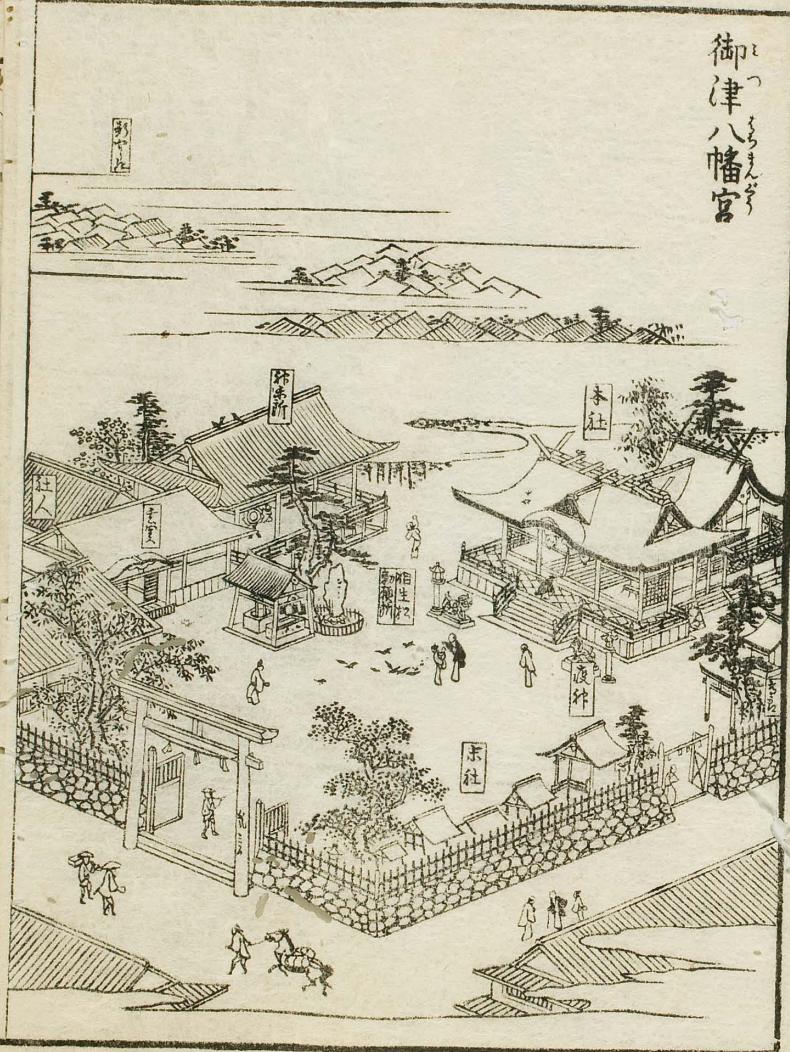
聚樂館古蹟 南谷町の東聚樂館聚樂館から秀次公城ゆく後慶長の三月某日御生見宜堂



九四
九四



九四
九四



御津八幡宮

庚申塚（上塚町）
寺（久水南）相模國林村（小野町）相模氏の家（ゆう）

頬焼地藏（谷町）佛地藏波東院（小野）地藏多々懲覺大作の地初（トモシテ）
人の贋（あら）也（よ）地藏宇波儀（い）毎日豆食（豆食田細）道（みち）所（よし）人（ひと）初（はじ）極（きわ）
する像（ぞう）小供（こども）助（すけ）志支（しそく）想（おも）公開（こうかん）怒（いのり）下女（しもめ）頬面（ほおめん）一燒（いつやき）波（は）究（くわ）故（ゆゑ）小世（こよの）身代（みしろ）頬燒地藏（ほおなまづぞう）

菩薩（ぼさつ）也（よ）小賞（しょうじょう）下女（しもめ）人（ひと）

三津八幡宮（もとえだいふうぐう）放生會（ほうじょうかい）八月十五日

祭神應神天皇（おうじんてんのう）仁德帝（じんとくてい）勸善の年（ねん）遠（とお）仰（あお）詳（ひやう）近（ちか）八幡宮（はちまんぐう）八幡山（はちまんさん）小社（こしゃ）魏（ゐ）後世（ごせい）也（よ）小僧（さうそう）參拜（さんぱい）寺（てら）の鎮（ちん）也（よ）八幡宮（はちまんぐう）

三津寺（みつてら）本尊十一面觀世音（ほんそんじゅうまいがんぜん）行基菩薩（ぎやくぼさつ）開基（かいざい）星の地長尺八寸寺說云行基菩薩開基（ぎやくぼさつ）也（よ）古今多難波の三所の寺（さんしょのてら）也（よ）芦（あし）の三津は舊の神宮寺（じんぐうてら）也（よ）天王寺の津（つ）也（よ）或（も）云周（まわ）立（たつ）是（これ）也（よ）迎年（むかひとし）の火災（ひさい）小枝葉（こじはや）焚（のぶ）亡（なが）れ



三つ津寺

祝香堂

